

宮 崎 市 政 モ ニ タ ー

令和元年度第2回アンケート集計結果

(令和元年10月実施分)

第2回アンケート

宮崎市政モニターアンケート調査概要	・・・ 1
①「宮崎市の景観づくり」に関するアンケート調査	・・・ 2
②「宮崎市版エンディングノート」に関するアンケート調査	・・・ 12
③「ロコモティブシンドローム」に関するアンケート調査	・・・ 19
④「宮崎市田野町のイメージ」に関するアンケート調査	・・・ 27
⑤「地域コミュニティ」に関する市民意識調査(※)	・・・ 32

※⑤「地域コミュニティ」に関する市民意識調査については、第1回アンケート(7月実施)でしたが、地域コミュニティの関係者等が出席する会議等でアンケート結果を共有し考察等を作成したため、取りまとめに時間を要し、前回送付することができませんでした。

そのため、今回の第2回アンケートの結果とともに送付させていただきます。

宮崎市秘書課広報広聴室

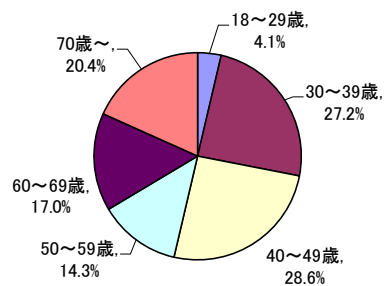
令和元年度 第2回宮崎市政モニターアンケート調査概要

(1) 調査担当課	①景観課 ②、③健康支援課 ④田野・農林建設課
(2) 調査内容	①「宮崎市の景観づくり」に関するアンケート調査 ②宮崎市版エンディングノート「わたしの想いをつなぐノート」に関するアンケート調査 ③「ロコモティブシンドローム」に関するアンケート調査 ④「宮崎市田野町のイメージ」に関するアンケート調査
(3) 調査期間	令和元年10月10日～10月30日 ※終了後も一定期間回収
(4) 送付数	163人 (郵送モニター116人、e-モニター47人)
(5) 回答数	147人 (郵送モニター112人、e-モニター35人) 回答率90.18%

モニター属性（回答者）

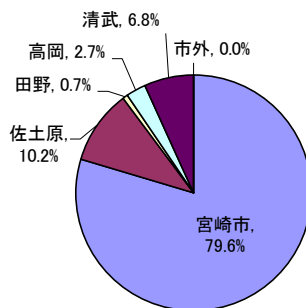
令和元年11月18日

年齢別（性別）



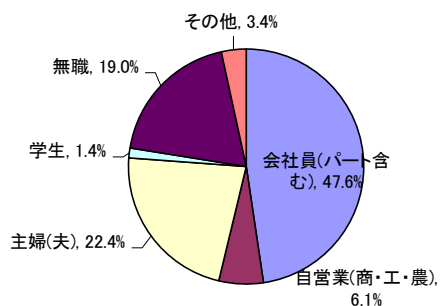
年齢	男	女	計
18～29歳	1	4	6
30～39歳	10	23	40
40～49歳	12	27	42
50～59歳	6	13	21
60～69歳	13	11	25
70歳～	19	8	30
計	61	86	147

地域別



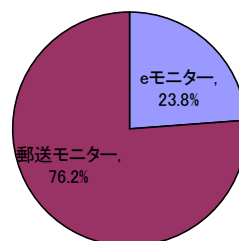
地域	人
宮崎市	117
佐土原	15
田野	1
高岡	4
清武	10
市外	0
計	147

職業別



職種	人
会社員(パート含む)	70
自営業(商・工・農)	9
主婦(夫)	33
学生	2
無職	28
その他	5
計	147

モニター種別（回答方法）



回答方法	人
eモニター	35
郵送モニター	112
計	147

「宮崎市の景観づくり」に関するアンケート調査 集計結果

◆調査の目的

本市では、豊かな自然や街なみからなる美しい景観を守り、育てることを目的として、平成2年に「宮崎市都市景観条例」を制定し、景観施策にいち早く取り組んできた。平成16年に「景観法」が施行されて以降、平成19年に『宮崎市景観計画』を策定し、建築物等の色彩・形態に関わるルールづくりや景観啓発などを行っているが、策定後10年が経過し改訂を行なう時期を迎えている。これまで実施してきた取組みについての評価・検証を行い、改訂時の指標とする。

◆調査の概要

- (1) 調査期間 令和元年10月10日～10月30日 ※終了後も一定期間回収
- (2) モニター数：168人
- (3) 回答者数：146人
- (4) 担当課 都市整備部 景観課

◆調査結果概要

1. 宮崎市の街なみや自然の風景の満足度、以前(約10年前)との比較について

満足度については、「臨海景観軸である宮崎市の海岸沿いの景観」について、「とても満足」「やや満足」と答えた人は合わせて67.2%であった。一方で、「中心市街地である中核拠点周辺」や「各地域にある商業地域・業務地の景観」については、「不満」「やや不満」と答えた人の割合が2割程度と他の項目と比較すると高い割合となっており、場所や要素によっては満足度に差があることがわかる。

10年前と比較した印象については、満足度と同様、「臨海景観軸である宮崎市の海岸沿いの景観」において「とても満足」「やや満足」と答えた人が52.7%と高い割合を示している。また、近年開発が進んでいる「駅、空港、港の交通拠点周辺」においても、「とても満足」「やや満足」と答えた人は58.2%と高い割合を示している。

一方で、多くの項目で「どちらでもない」と答えた人の割合は高く、半数以上を占めるものもある。

3. 景観上重要な地区(重点景観形成地区・景観形成推進地区)について

「一ツ葉リゾート地区」「日南海岸地区」については、「十分魅力があると感じる」「どちらかという魅力があると感じる」と答えた人がそれぞれ80.9%、85.6%と高い割合を示している。

一方で「宮崎駅東通り地区」については、「どちらかというと魅力がないと感じる」「あまり魅力がないと感じる」と答えた人の割合が、合わせて49.3%と約半数を占める結果となったが、自由意見においては、今後の開発に期待する意見が多数あった。

5. 宮崎市の景観に良好な影響を与えている建築物・樹木について

建築物においては、「宮崎県庁」、樹木においては「ワシントンアパーム」という意見が多数あり、宮崎を代表する景観として市民に親しまれていることが伺える。

7. 景観のルール規制について

景観のルール規制について、「ほとんど知らない」「知らない」と答えた人の割合は、合わせて63.3%と半数を超えており、認知度が低いことがわかる。

今後のルール規制の設定方針としては、現在と同様の方針であること、重点景観地区では現在より細やかなルールを設けるべきであるとの意見が多い。

景観のルールの作り方は、行政と住民が話し合い、住民の意見を聞いた上で定める方がよいとの意見が8割以上であった。

◆調査結果まとめ

宮崎市では、景観計画を策定し、10年以上が経過している。今後、計画の全面改訂を行なうことになるが、今回の結果は宮崎の景観形成の現状を把握する上で参考となる指標となった。

また、良好な景観を形成するためには、景観のルール規制が必要になるが、現在のルール規制についてはあまり認知されていないことが伺えるため、今まで以上に市民意見の反映や規制内容の周知を行う必要がある。

◎調査結果

集計結果の数値(%)は、小数点以下第2位を四捨五入しているため内訳の比率の合計が100%とならない場合がある。

問1：宮崎市の街なみや自然の風景は、以前(約10年前)と比べてどうなったと感じますか。

現在の満足度	とても満足	やや満足	どちらでもない	やや不満	不満	該当なし
(1)臨海景観軸である宮崎市の海岸線の景観	20.6%	46.6%	23.3%	6.9%	2.1%	0.7%
(2)道路景観軸である国道などの主要幹線道路沿いの景観	11.0%	43.2%	30.1%	11.6%	3.4%	0.7%
(3)河川景観軸である大淀川沿岸の景観	15.1%	37.0%	36.3%	8.9%	2.1%	0.7%
(4)平和台・天神山公園などの眺望点周辺の景観	12.3%	31.5%	44.5%	10.3%	1.4%	0%
(5)駅・空港・港の交通拠点周辺の景観	13.7%	51.4%	25.3%	8.2%	1.4%	0%
(6)中心市街地である中核拠点周辺	5.5%	39.0%	36.3%	13.7%	4.8%	0.7%
(7)各地域にある商業地域・業務地の景観	3.4%	35.6%	43.8%	14.4%	2.1%	0.7%
(8)住宅地の景観	3.4%	24.7%	56.2%	13.7%	2.1%	0%
(9)田園・農村集落の景観	6.2%	23.3%	58.2%	9.6%	2.7%	0%
(10)山並み・緑地の景観	11.6%	24.7%	50.0%	10.3%	2.7%	0.7%
10年前との比較	とても満足	やや満足	どちらでもない	やや不満	不満	該当なし
(1)臨海景観軸である宮崎市の海岸線の景観	21.9%	30.8%	32.9%	8.2%	2.1%	4.1%
(2)道路景観軸である国道などの主要幹線道路沿いの景観	14.4%	29.5%	41.1%	7.5%	3.4%	4.1%
(3)河川景観軸である大淀川沿岸の景観	15.8%	28.1%	43.2%	6.2%	2.7%	4.1%
(4)平和台・天神山公園などの眺望点周辺の景観	14.4%	20.6%	50.7%	8.2%	0.7%	5.5%
(5)駅・空港・港の交通拠点周辺の景観	21.9%	36.3%	31.5%	5.5%	0.7%	4.1%
(6)中心市街地である中核拠点周辺	10.3%	27.4%	45.2%	10.3%	1.4%	5.5%
(7)各地域にある商業地域・業務地の景観	8.9%	24.0%	51.4%	10.3%	1.4%	4.1%
(8)住宅地の景観	6.2%	21.9%	57.5%	8.9%	1.4%	4.1%
(9)田園・農村集落の景観	6.9%	15.1%	61.6%	9.6%	2.7%	4.1%
(10)山並み・緑地の景観	12.3%	13.0%	54.8%	12.3%	2.7%	4.8%

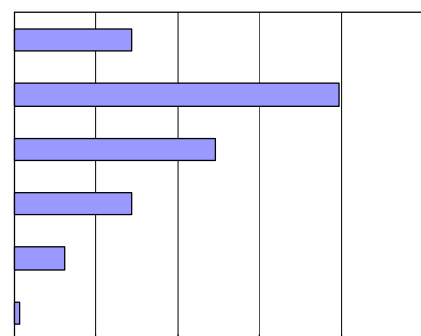
問2：問1以外の景観で、魅力があるものがあれば自由にご記入下さい。(主なもの)

- ・市役所周辺の緑地。
- ・木花神社から見る青島方面の田園風景。
- ・地方からのイベントに興味があるのですが、宮崎のかぐらを県外へ。サーフィン、高木兼弘、若山牧水、名のある人の物語等力を入れて欲しい。
- ・電柱が地上から地下に埋めかえられている所は景観がよくなっていると思います。
- ・田野町冬の畑に広がる大根干しの風景。
- ・県庁本館。以前、フェニックスが枯れて撤去されたので、正面の本館がよく見えるようになって景観が良くなった。又ライトアップも良い。

問3:景観上重要な6つの区域(重点景観形成地区・景観形成推進地区)それぞれの印象・意見について

1.「高千穂通り地区」について

選択肢	回答数	比率
1. 十分魅力があると感じる	21	14.4%
2. どちらかというとも魅力があると感じる	58	39.7%
3. どちらかというとも魅力がないと感じる	36	24.7%
4. あまり魅力がないと感じる	21	14.4%
5. 分からない	9	6.2%
6. 無回答	1	0.7%

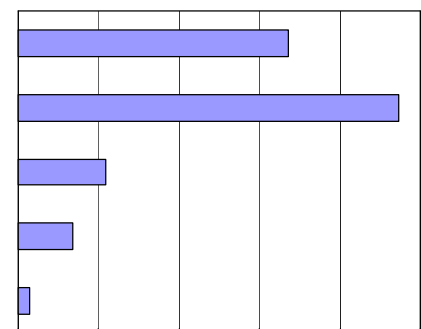


○自由意見(主なもの)

- ・商社が多い。もっとエンターテインメント的な施設、建物を誘致できればいいと思う。
- ・美術品的造形物が道路を飾っているが、手入れがなされておらずせつかくのものが、もったいないと感じる。

2.「一ツ葉リゾート地区」について

選択肢	回答数	比率
1. 十分魅力があると感じる	49	33.6%
2. どちらかというとも魅力があると感じる	69	47.3%
3. どちらかというとも魅力がないと感じる	16	11.0%
4. あまり魅力がないと感じる	10	6.9%
5. 分からない	2	1.4%

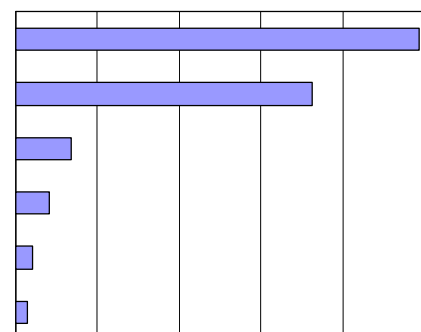


○自由意見(主なもの)

- ・緑が多く、手入れ等がきちんに行われているイメージなので、好感を持っています。
- ・海岸に行き、散歩できるようなモデルケースのコースやルートの設置を望みます。

3.「日南海岸地区」について

選択肢	回答数	比率
1. 十分魅力があると感じる	72	49.3%
2. どちらかというとも魅力があると感じる	53	36.3%
3. どちらかというとも魅力がないと感じる	10	6.9%
4. あまり魅力がないと感じる	6	4.1%
5. 分からない	4.1	2.1%
6. 無回答	3	1.4%

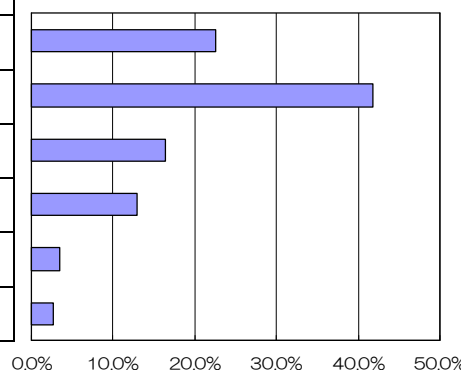


○自由意見(主なもの)

- ・景観は素晴らしいが、以前のフェニックスドライブインやサボテン公園がにぎわいがあった。魅力ある拠点作りが必要だと思う。
- ・景観が良いので、県外の方にも喜ばれる場所だと思う。

4.「大淀川地区」について

選択肢	回答数	比率
1. 十分魅力があると感じる	33	22.6%
2. どちらかというとも魅力があると感じる	61	41.8%
3. どちらかというとも魅力がないと感じる	24	16.4%
4. あまり魅力がないと感じる	19	13.0%
5. 分からない	5	3.4%
6. 無回答	4	2.7%

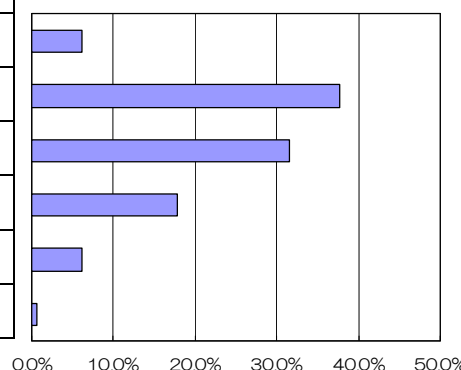


○自由意見(主なもの)

- ・整備化が進んで綺麗になっています。ただ、開発がマンションばかりで同じような並びになっているのでデザイン的に見ていて面白くなってきています。
- ・整備の行き届いている場所とそうでない場所との差があるので、全体的に整備する必要があると思う。

5.「宮崎駅東通り地区」について

選択肢	回答数	比率
1. 十分魅力があると感じる	9	6.2%
2. どちらかというとも魅力があると感じる	55	37.7%
3. どちらかというとも魅力がないと感じる	46	31.5%
4. あまり魅力がないと感じる	26	17.8%
5. 分からない	9	6.2%
6. 無回答	1	0.7%

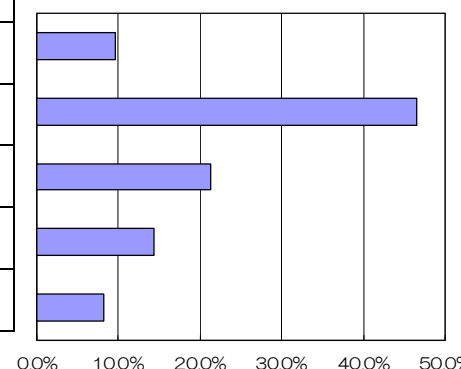


○自由意見(主なもの)

- ・発展途上という感じがします。とても開けて綺麗になっているところもあるので、整備を頑張って続けてほしいと思います。
- ・現在は、閑散とした感じを受けますが、工夫次第では大変貌する可能性を秘めている。

6.「四季通り地区」について

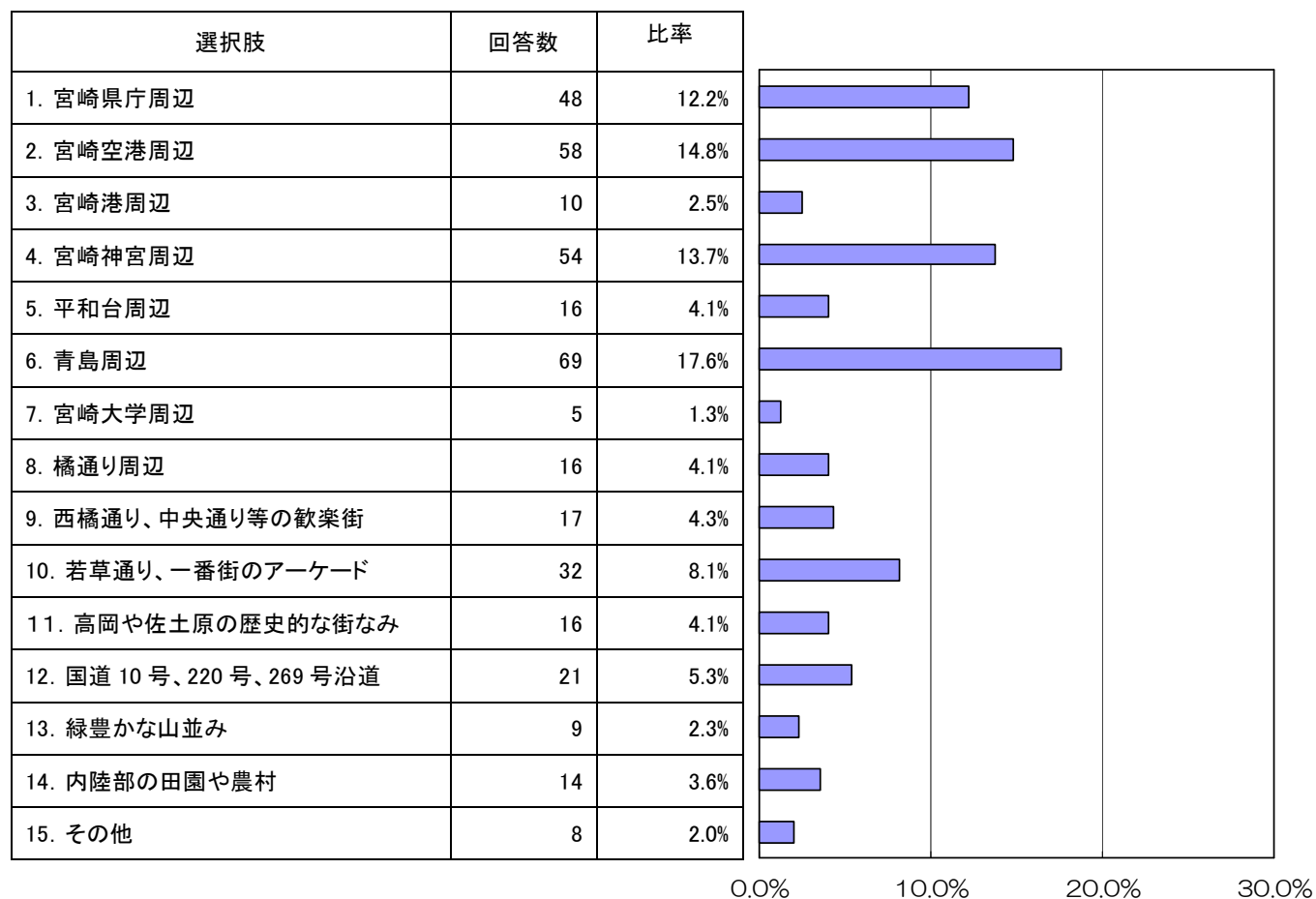
選択肢	回答数	比率
1. 十分魅力があると感じる	14	9.6%
2. どちらかというとも魅力があると感じる	68	46.6%
3. どちらかというとも魅力がないと感じる	31	21.2%
4. あまり魅力がないと感じる	21	14.4%
5. 分からない	12	8.2%



○自由意見(主なもの)

- ・石畳が良い味を出している。植物がきれいに植えられている。
- ・四季通り地区を魅力ある地区にするために何か思い切った特色を出して欲しい。

問4:重点地区以外で、宮崎市の景観を形成する上で重要な場所はどこですか。下記(1～14)から3つまで選んでお答えください。(該当する場所がない場合は選択不要です。)



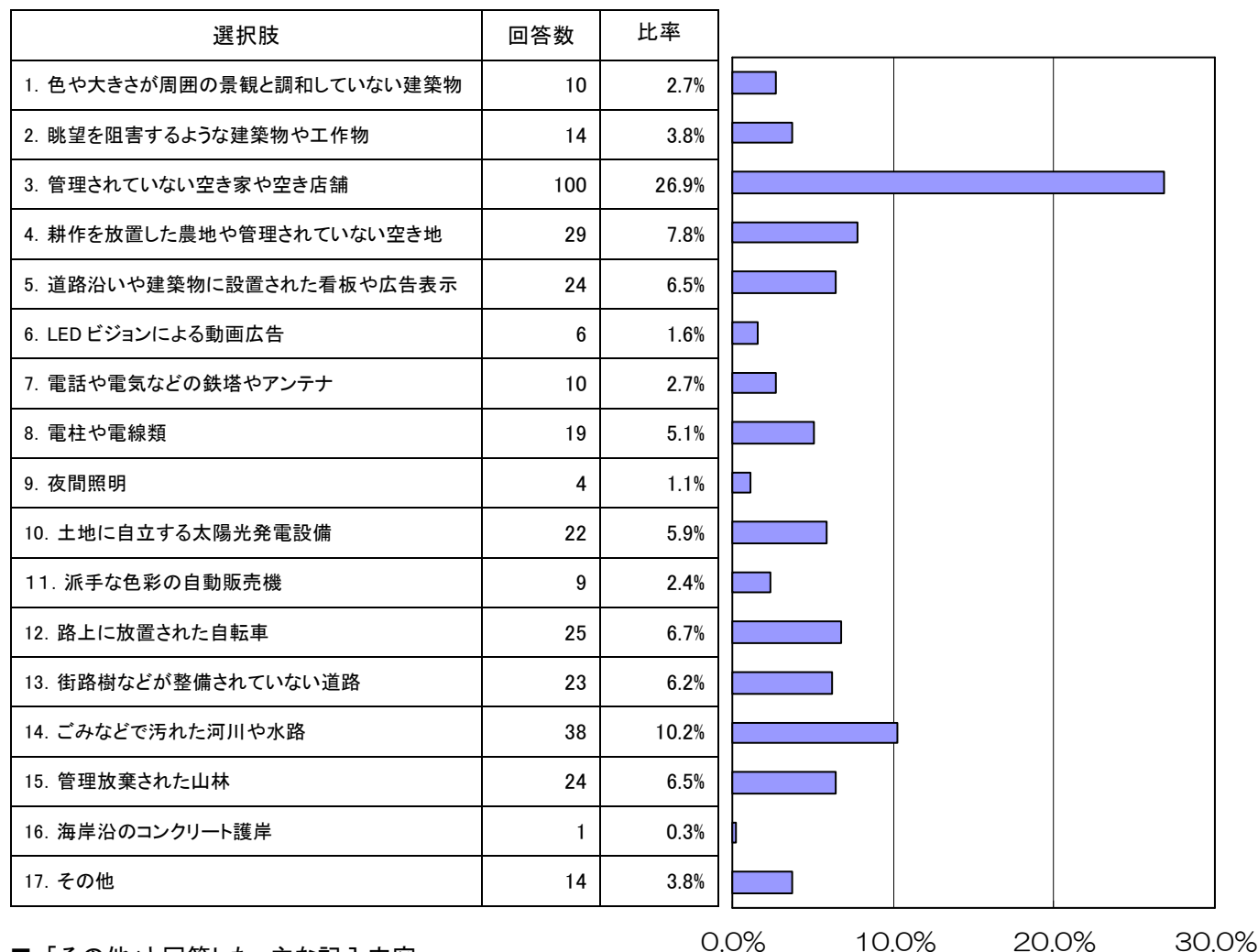
■「その他」と回答した、主な記入内容

- ・宮崎空港から街中まで移動する際に使う、バイパス周辺の景観。観光客が通るのはその道。
- ・街中を重点的にきれいにしてほしいと思います。観光で飲食する人も多いと思うので、手入れをいきとどかせてほしいと思います。
- ・神宮周辺では図書館、美術館などがあり、市民憩いの場として重要。

問5:宮崎市の景観に良好な影響を与えていると思う建築物や樹木などはありますか。景観に良好な影響を与えていると思う理由も併せて3つ以内でお書き下さい。

建築物	回答数	理由(主なもの)
1. 宮崎県庁	23	歴史を物語る建築物である
2. 平和台公園の平和の塔	11	存在感があり、ランドマークになる
3. 宮崎神宮	8	風格がある
樹木	回答数	理由(主なもの)
1. ワシントンニアパーム	36	宮崎のシンボル
2. 県庁前の楠並木	23	大きくて立派
3. フェニックス	14	南国のイメージ

問 6: あなたがお住まいの地域や宮崎市全域で、良好な景観を形成する上で好ましくないもの、障害となっているものはありますか。下記(1～16)から 3 つまで選んでお答えください。

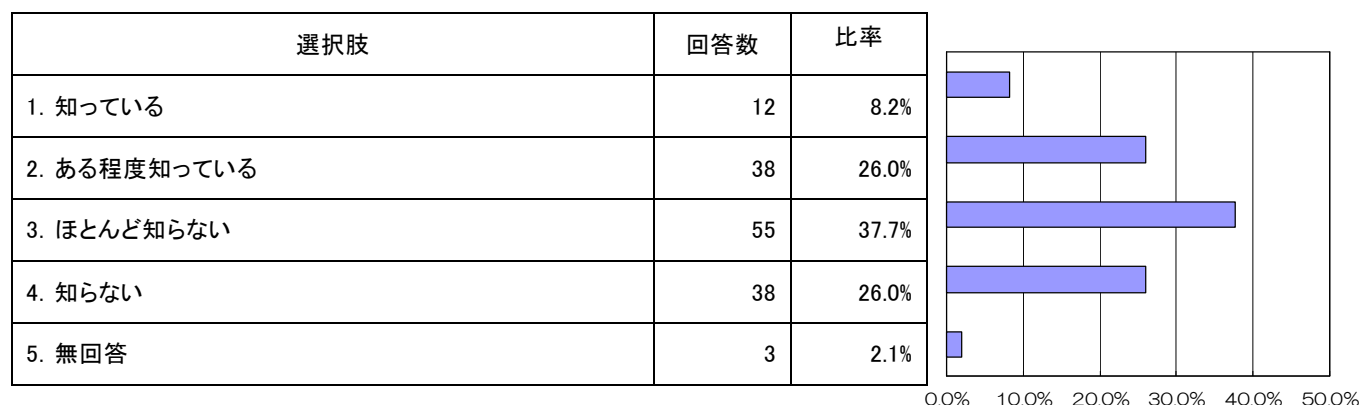


■ 「その他」と回答した、主な記入内容

- ・乱立するマンション。
- ・歩道にはみ出た植栽が通行に支障となっている場所が多く危険と感じる。
- ・やむを得ない事だとは思いますが、ここ 10 年位で鉄塔が増えたのでは？

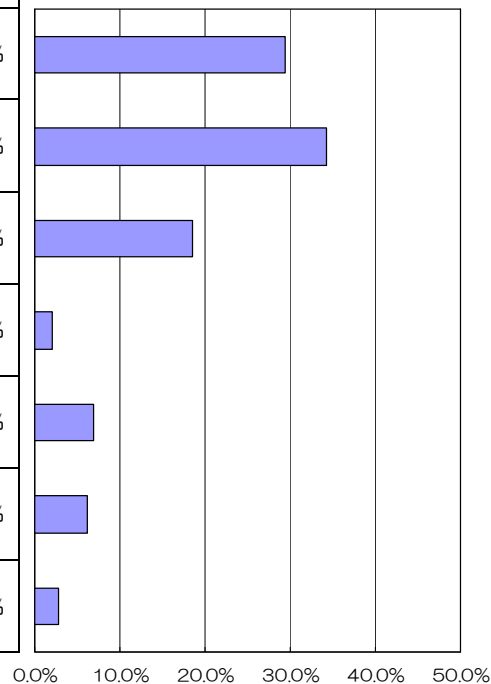
問7: 宮崎市では、良好な景観を形成するために、市内全域において建築物の高さや形、屋根や外壁の色について、ルールを設けて規制を行なっています。また、重点景観形成地区においては、より厳しいルールも設けておりますが、このことについてどのように思われますか。以下の問にお答え下さい。

1. 景観のルール規制の内容をご存知ですか。



2. 景観のルール規制の今後の方針として、どのように設定することが望ましいと思いますか。

選択肢	回答数	比率
1. 現在のルールと同様、市内全域のルールと重点景観形成地区のルールの運用でよい	43	29.5%
2. 市内全域は現在のルールのままでよいが、重点景観形成地区は現在より細かなルールも設けたほうがよい	50	34.3%
3. 現在よりきめ細かなルールを市内全域に設けるとよい	27	18.5%
4. 現在より緩やかなルールを市内全域に設けるとよい	3	2.1%
5. 市内全域にはルールを設けず、重点景観形成地区のみ細やかなルールを設けるとよい	10	6.9%
6. その他	9	6.2%
7. 無回答	4	2.7%

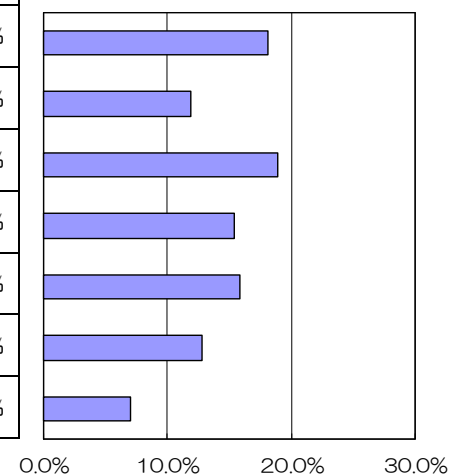


■「その他」と回答した、主な記入内容

- ・街並みにあった景観作りをしてほしい。
- ・ルールと共に樹木なども整えてほしい。
- ・ルールを知らないなので認知度を上げるべき。

3. ご自身が建築物や屋外広告物を建てるときに、景観上の規制が係りますが、どのようなことは受け入れがたいですか。下記(1～7)から該当するものを全て選択して下さい。

選択肢	回答数	比率
1. 建築物の高さや大きさ	41	18.1%
2. 建築物の位置	27	11.9%
3. 建築物の色	43	18.9%
4. 屋根や外壁の素材	35	15.4%
5. 塀の高さ・色・素材	36	15.9%
6. 敷地内の緑化	29	12.8%
7. その他	16	7.1%

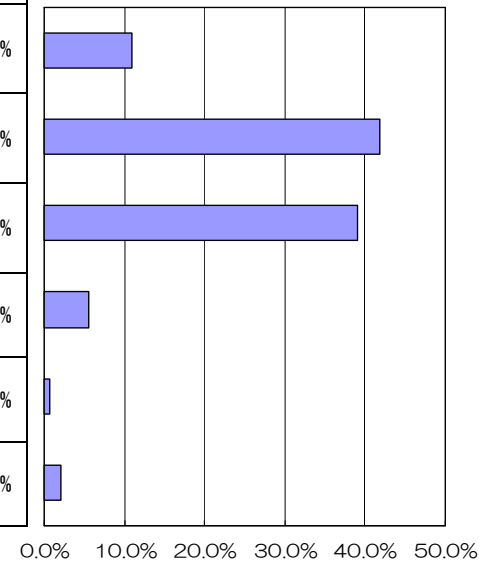


■「その他」と回答した、主な記入内容

- ・宮崎の場合、緑化はそれほど必要に感じない(管理費用をどうするのか等問題あり)高さ、大きさ、色は厳しくしても良いと思う。
- ・建てるにあたってそれを知って建てるのだからできるだけ受け入れてほしい。

4. 住まい周辺を対象とした身近な地域において、新たなに景観のルールづくりを行なう場合は、今後どのように進めるべきだと思いますか。下記(1～5)より該当するものを1つ選択して下さい。

選択肢	回答数	比率
1 住民が主体的にルールを定めることを基本とし、行政は専門分野の面で支援する	16	11.0%
2. 住民と行政が景観について議論する場を設けて、十分に話し合いながらルールを定める	61	41.8%
3. 行政が主体的にルールの案を作成し、住民の意見を聴いた上でルールを定める	57	39.0%
4. 今以上の新たなルールは必要ない	8	5.5%
5. その他	1	0.7%
6. 無回答	3	2.1%

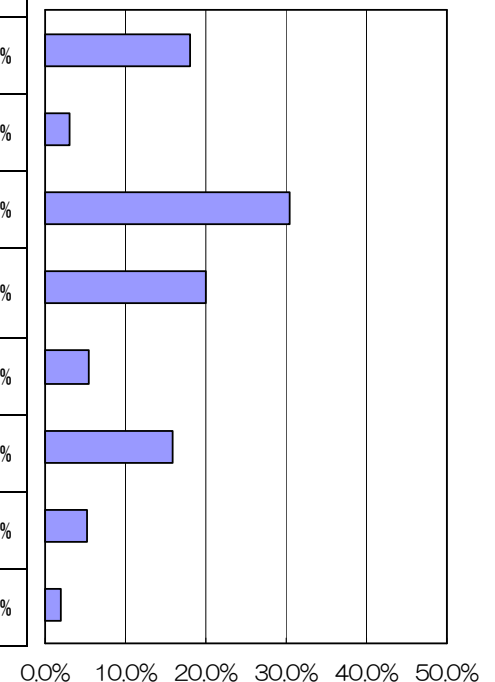


■「その他」と回答した、主な記入内容

- ・都市計画案と連携しながら、他都市のモデルも取り入れ、宮崎にマッチするプランを専門家から提示して欲しい。
- ・ルールを定めるだけでは不十分。全住民に周知して欲しい。掲示板、広報は見ない人が多い。他の方法も願う。
- ・住民と一体となった街づくりを進めるべき。

問8: 将来、宮崎市の景観はどのようになってほしいですか。下記(1～8)から3つまで選んでお答えください。

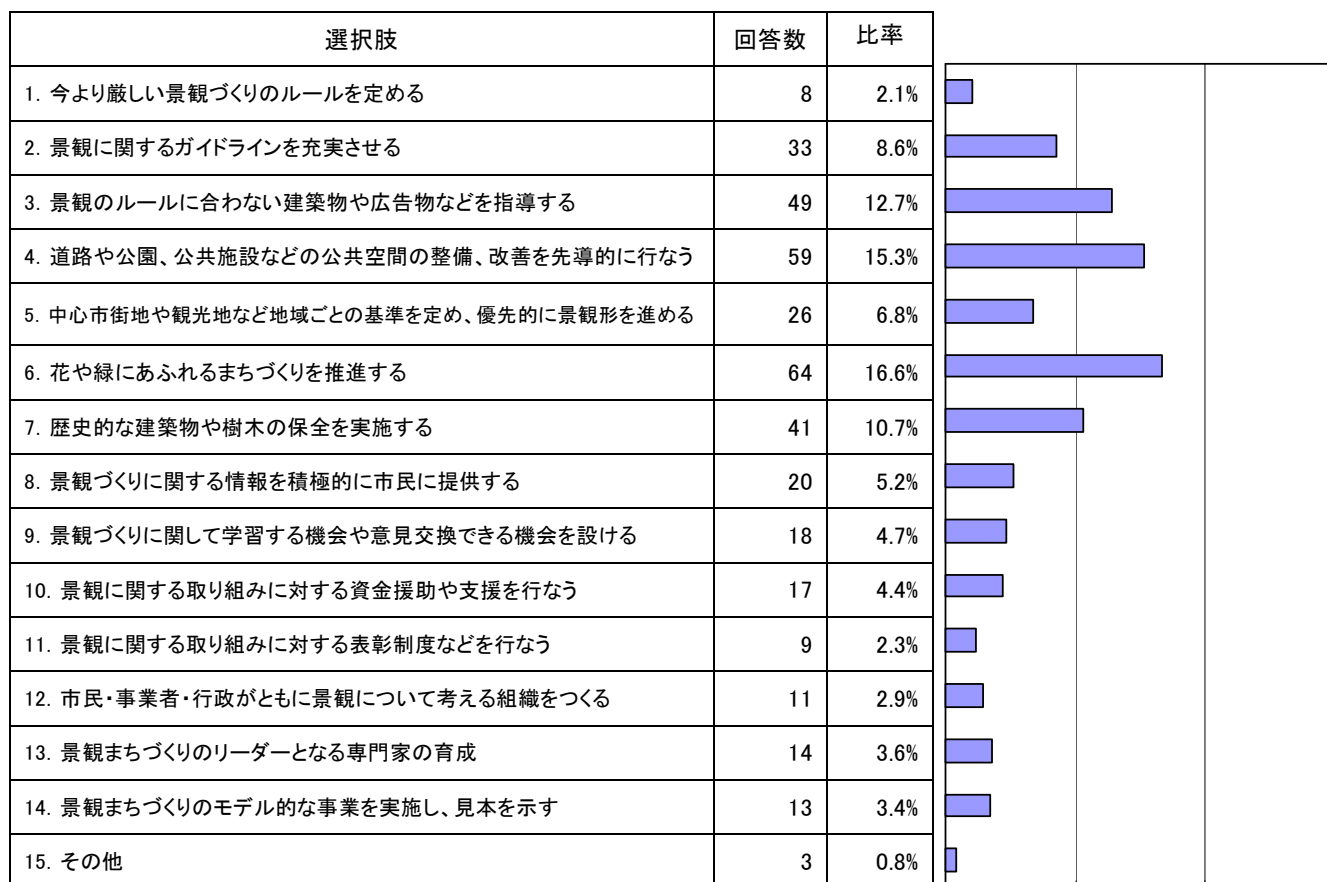
選択肢	回答数	比率
1. 商業施設などが多くあり、人が集まる活気のあるまち	65	18.0%
2. ビルやマンションが建ち並ぶ都会的なまち	11	3.1%
3. 自然環境と調和した緑豊かなまち	110	30.5%
4. 良好な景観に貢献するような公共施設や公共空間が整備されたまち	72	19.9%
5. 大きな建築物が少なく落ちついた雰囲気のあるまち	20	5.5%
6. 歴史や文化を感じるまち	57	15.8%
7. 今ある景観が守られているまち	19	5.3%
8. その他	7	1.9%



■「その他」と回答した、主な記入内容

- ・南国宮崎市の中に海岸の涼しい空気を感じる都市づくりがほしいと思います。
- ・景観は勿論の事、災害に強い(安全な)まちを強く希望しています。
- ・これからの時代、他の地域と同じような町並みはいりません。宮崎市しか出来ない町並みを考え、構築すべきです。あえていうならストーリーのある町並みを作って頂きたいです。

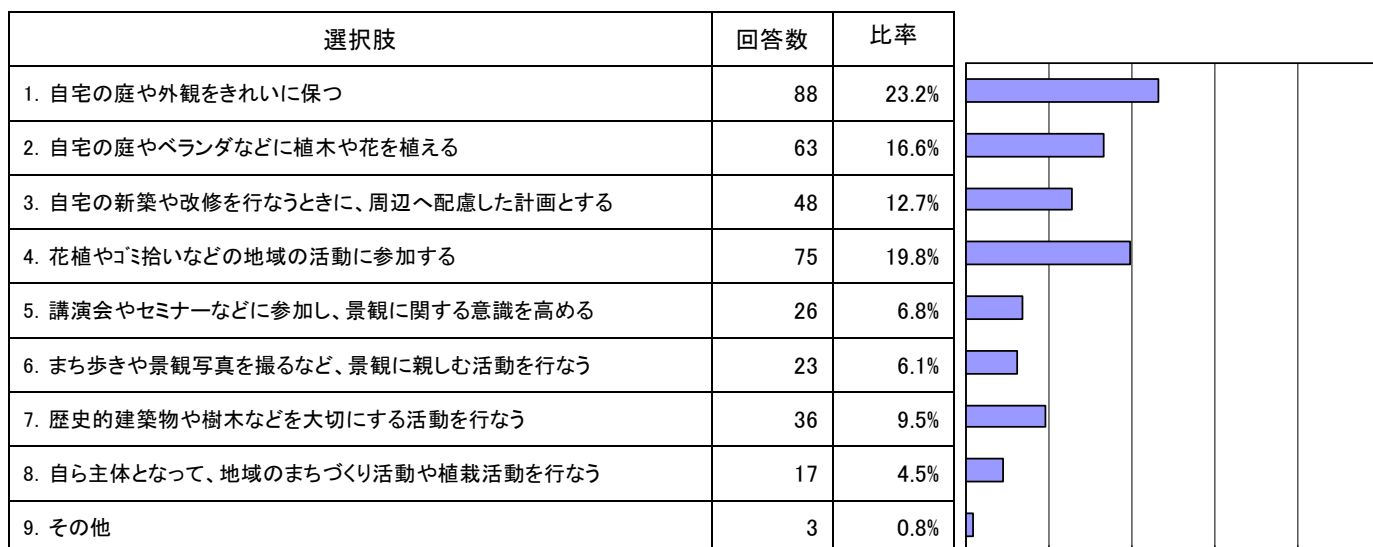
問9:美しい景観まちづくりを進めていくために、市に期待することはありますか。下記(1~15)から3つまで選んでお答えください。



■「その他」と回答した、主な記入内容

- ・空いてる店が多いのがさみしい。
- ・個人住宅の適切な管理を促す。雑草が茂る住宅が多い。周辺環境に悪影響を及ぼす。

問10:良好な景観づくりにおいて、あなた自身はどのようなことであれば実行できると思いますか。下記(1~9)より当てはまるもの全てを選択して下さい。



■「その他」と回答した、主な記入内容

- ・小さな事を皆んなで行うと大きな力になると思うのでPRをしてほしい。
- ・SNSで発信する。

問 11:その他景観に関してご意見などございましたら、以下の欄に自由にご記入下さい。(主なもの)

- ・緑の多い街にして欲しい。木の枝を切りすぎないように。公共の建物・敷地は木を大きくして欲しい。
- ・個人住宅についても適切な維持管理を促す。雑草が生い茂る家が多い。街の景観をよくするには花木等の維持管理のために雨水タンクに補助金を出している自治体も多い。宮崎市でも補助金の検討を。環境面でもプラス。
- ・植栽や伐採、道路改修や、看板・標識の整備を行う前に工事完了後のイメージを市広報等でアピールしてほしいです。年度完結で、1つ1つ確実に、改良して欲しいです。
- ・建物や樹木などに目をやりながら、ごみ処理についても一人ひとりが心がける宮崎市になればいいな…と思います。(あちこちでごみを見かけます)
- ・景観場所等にその場所を担務している県なり市なりの課を明記して欲しい。なにかあった時(破損や損壊など)市民がすぐ連絡できる。
- ・子供参加型(幼・保育園・小・中・高)のイベントがあればいい。
- ・国道等大きい道路に面したところはそう汚いところは目立たないが、その裏側に廻ると汚い場所は少なくない。改善指導の余地あり。
- ・モニターになった時に、景観条例の内容を教えてほしかった。その内容を基に、関心をもって過ごしてくれば、もう少しまともにアンケートに答えられたかと思います。
- ・マンションが次から次へと建ち、朝日、夕日、花火、わに塚山、高千穂の峰など、だんだん見えなくなりました。建築物の高さの規制って、「何かが見えなくなる」ということには、関係ないのですね。
- ・薬屋、金融関係の建物、広告は、街の景観を害していることが多い。取扱って欲しい。
- ・植栽については、管理するのが大変だし重要だと考えます。宮崎市内で緑が少ないと感じる場所はないと思いますので、独自の景観づくりをしたほうが良いと思います。
- ・動く広告バス、宮崎交通の青と白のツートンカラーは南国宮崎の海の青、空の青とよくマッチしている。継続を望みます。(ガイドの制服同様、特に濃い青が白にマッチする気がします)
- ・自然を生かし歴史を生かし落ちついたまちに。
- ・サーフィンの世界大会やシェラトンでのフラダンス大会等南国のイメージが年々深まっているように感じています。観光地や人が多く集まる場所は特にイメージを大切に環境作りをして欲しい。
- ・「景観づくりに関する情報」を今よりさらに積極的に市民に提供していただきたいと思います。
- ・最近太陽光発電のメガ規模の施設や逆に狭い土地にやたらとパネルを敷設して景観の悪化と周辺の気温上昇を招いているのではないかと。
- ・景観で人が集まると思って景観に力を入れているのならそれは違う気がします。市内と観光地と同様に力を入れても効率が悪いのでは？市内は住みやすくおおいに景観に力を入れて欲しいです。
- ・電柱の地中化等を進めて頂けると、今以上に、素晴らしい景観になると思います。
- ・景観づくりのために植樹等を行うのはいいと思いますが、管理をきちんとしてないので、草や手入れされないまま放置されている個所があるとおもいます。そういうことも含めて管理のできる範囲で景観づくりをおこなってほしいです。
- ・美しいモノのみを景観とするのはつまらないです。駄目なところも景観なので活かせる何かがあれば良いと思います。
- ・一人一人ができる事で考えれば、まず自分の自宅の外観をきれいに保てるよう日々努力していきたいと思っています。

宮崎市版エンディングノート「わたしの想いをつなぐノート」に関するアンケート調査
集計結果

◆調査目的

宮崎市では、平成26年度から自身の終末期医療（病状や衰弱が進み治療回復の見込みがなく、やがて最期を迎える段階で、いろいろな技術により生命の維持をはかる医療）の希望について伝える為の宮崎市版エンディングノート「わたしの想いをつなぐノート」を配付しています。これは、ひとりひとりが最期まで自分らしく過ごすことができるように話し合うきっかけづくりの一つとして作成したものです。ノートの活用状況や終末期医療の意向等を把握することで、今後の取組の参考とします。

◆調査の概要

- | | | |
|-----------|-------------------|-------------|
| (1) 調査期間 | 令和元年10月10日～10月30日 | ※終了後も一定期間回収 |
| (2) モニター数 | 163人 | |
| (3) 回答者数 | 147人(回答率90.18%) | |
| (4) 担当課 | 健康管理部健康支援課 | |

◆調査結果考察

- 問1の「わたしの想いをつなぐノート」の認知度について、「知っている」と答えた方は27.2%であり、年齢別で見ると60歳以上の認知が高くなっている。また、情報源としては「市広報」が60%と一番多く、続いて自治会回覧が42.5%となっているため、今後も定期的な掲載が必要である。
- 問3の「わたしの想いをつなぐノート」を書いている方は、7.5%と少ない状況ではあるが、問7の「終末期医療の話し合い」について、「詳しく話し合っている」と答えた方は5.4%、「一応話し合っている」と答えた方は35.4%で、合わせて40.8%の方が、家族等もしくは医療介護関係者と話し合ったことがあることが分かった。また、全国調査と比べても同様の割合である。「話し合ったことがない」と答えた方は、58.5%で30代、40代が多く、50代から話し合っている割合が増えている。
- 問9の「終末期医療について話し合ったことのない方の理由」として、「話し合うきっかけがなかったから」と答えた方が66.3%と一番多く、全国調査と比べても割合が高いことが分かった。「わたしの想いをつなぐノート」を手にすることで、話し合うきっかけにしてほしいとの目的があることから、今後も周知が必要である。
- 問11の「医療方針を決める人の選定」をしている方の中で、治療希望について「十分に知っていると思う」と答えた方は36.6%、「知っていると思う」と答えた方は41.5%おり、合わせて78.1%の方が選定した人と治療の希望について共有できていることが分かった。
- 問12の「自宅で療養して、必要になれば医療機関に入院したい」と答えた方が49.0%と最も多く、H25調査と同様であるが、割合は減っている。続いて「自宅で最後まで療養したい」と答えた方が19.7%と多かった。順位についてはH25調査と変わりがなく、自宅でできるだけ過ごしたいと希望する方が多いことが伺える。
- 問13の「自宅で最後まで療養すること」について「実現困難である」と答えた方は54.4%と一番多いがH25調査と比べると少し減少している。次に「わからない」と答えた方が32.0%と少し増えている。問14のその理由として「介護してくれる家族等に負担がかかる」が最も多く、続いて「急変時の対応の不安」が多くなっている。
- 問15の「人生の最後を迎えたい場所」として、「自宅」と答えた方は50.3%で一番多く、H25調査の割合よりも上回った。また、「医療機関」と答えた方は29.9%と2番目に多く、こちらもH25調査より割合が増えている。今回の調査では、その他の項目で「分からない」と答えた方が少なく、最期を迎えたい場所の希望を持っていることが伺える。
- 問16の「延命治療の希望」について、「望まない」が55.8%と一番多く、続いて「どちらかというと望まない」が31.3%となっており、H25調査よりも割合が増えている。反対に「望む」はH25調査よりも減少していた。問17の「望まない」「どちらかというと望まない」を選択した理由として、「家族に迷惑をかける」が49.2%と一番多い結果となっている。
- 問18の「アドバンス・ケア・プランニング(ACP)」もしくは「人生会議」の認知度について、「知らない」と答えた方が82.3%と一番多い結果となったが、ACPの考え方については、「賛成」が72.8%と多かった。

◆調査結果まとめ

実際に医療の希望について書面に書いている方は少ないが、約4割の方が家族等や医療介護関係者と話し合っていることが分かった。今後も話し合うきっかけづくりとして、「わたしの想いをつなぐノート」の活用を推進していきたい。

人生の最終段階における医療や療養については、H25の調査と大きな変化は見られなかった。人生の最期は自宅で迎えたいと希望している方が多いが、医療機関で迎えたいという方も増えている。場所は違っていても、その方が望む最期を迎えるためには、家族等や医療介護関係者が本人の意思を共有することが重要と考えられる。

今回、アドバンス・ケア・プランニング(ACP)について、言葉の認知は低いものの、その取組み(家族等や医療介護関係者等とあらかじめ話し合い、また繰り返し話し合うこと)について「賛成」である方の割合が高かった。医療や介護の現場において、本人の意思が確認でき、本人の意思を共有しながら、本人の意思を尊重した生き方が最期までできるよう、関係機関と連携し、体制づくりに努めたい。

◎調査結果

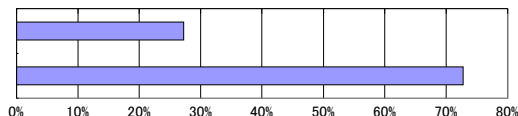
◎集計結果の数値(%)は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の割合の合計が100%にならない場合がある。また、複数回答の設問は、割合の合計が100%を超える。

◎全国調査とは、厚生労働省が平成29年12月5日～12月29日に実施した「人生の最終段階における医療に関する意識調査」を参照。

1. 「わたしの想いをつなぐノート」について、おうかがいします。

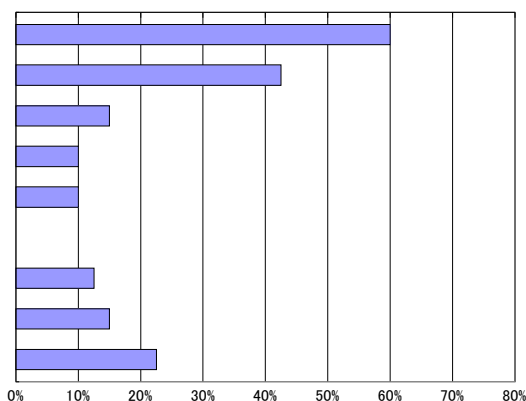
問1 宮崎市が配付していることを知っていますか。

選択肢	回答数	割合
①知っている	40	27.2%
②知らない	107	72.8%



問2 問1で「1」と答えた方におうかがいします。配付していることをどこで知りましたか。(複数回答)

選択肢	回答数	割合
①市広報みやざき(広報紙)	24	60.0%
②自治会回覧	17	42.5%
③新聞記事(報道)	6	15.0%
④テレビのニュース(報道)	4	10.0%
⑤市のホームページ	4	10.0%
⑥フェイスブック(宮崎市保健所小顔本町)	0	0.0%
⑦市政出前講座のチラシ	5	12.5%
⑧友人・知人	6	15.0%
⑨その他	9	22.5%

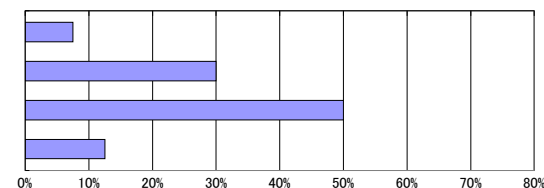


(その他意見)

- ・花山手のセンターに行った際に知り、もらいました。
- ・H28.11月の人権講座で市原美穂さんが紹介して下さいました。
- ・まちづくりでの講演会
- ・研修に参加しました。
- ・医療機関
- ・社会福祉協議会に置いてあった。
- ・何処でもらったか覚えていませんが、持っています。
- ・行政窓口
- ・病院

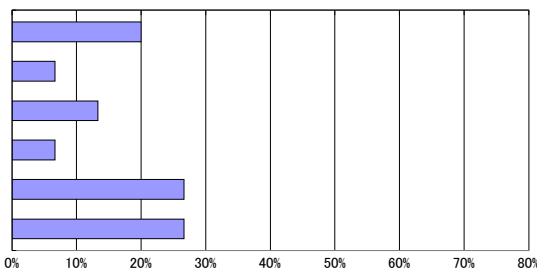
問3 問1で「1」と答えた方におうかがいします。「わたしの想いをつなぐノート」を持っていますか。

選択肢	回答数	割合
①持っており、ノートを書いている	3	7.5%
②持っているが、まだ書いていない	12	30.0%
③持っていない	20	50.0%
④他のエンディングノートを持っている	5	12.5%



問4 問3で「1」または「2」と答えた方におうかがいします。どこでもらいましたか。

選択肢	回答数	割合
①市政出前講座	3	20.0%
②市保健所(健康支援課)	1	6.7%
③市役所(介護保険課)	2	13.3%
④保健センター	1	6.7%
⑤地域包括支援センター	4	26.7%
⑥その他	4	26.7%



(その他意見)

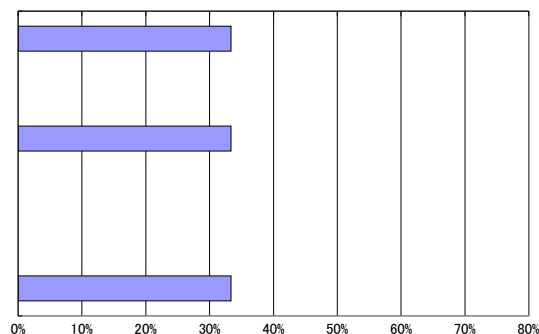
- ・講演会
- ・勤務していた会社のOB会
- ・社会福祉協議会
- ・覚えていない

問5 問3で「1」と答えた方におうかがいします。書いたきっかけは何ですか。

選択肢	回答数	割合
①市政出前講座などで話を聞く機会があり、ノートもらったから	1	33.3%
②医療や介護関係者による説明や相談の機会を得たから	0	0.0%
③メディア(新聞、ラジオ)から終末期医療の情報を得たから	1	33.3%
④自分の病気	0	0.0%
⑤ご家族の病気や介護	0	0.0%
⑥その他	1	33.3%

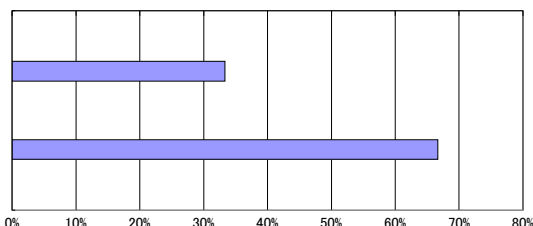
(その他意見)

・残された家族に私の気持ちを知ってほしいから。



問6 問3で「1」と答えた方におうかがいします。記入後どこに保管しましたか。

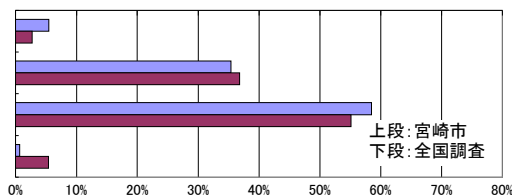
選択肢	回答数	割合
①常に持ち歩いている	0	0.0%
②お薬手帳と一緒にしている	1	33.3%
③冷蔵庫に貼るなど、目に付くところに置いている	0	0.0%
④引き出しなどにしまっている	2	66.7%
⑤その他	0	0.0%



問7 終末期医療について、ご家族等^{※1}や医療介護関係者と話し合ったことがありますか。

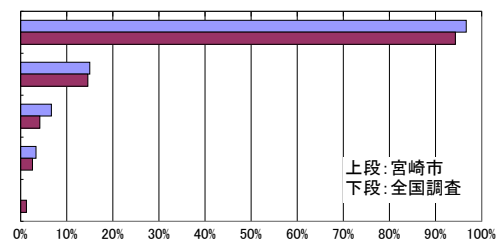
※1 「ご家族等」の中には、家族以外でも、自分が信頼して自分の医療・療養に関する方針を決めてほしいと思う人(友人、知人)を含みます。

選択肢	回答数	割合	全国調査
①詳しく話し合っている	8	5.4%	2.7%
②一応話し合っている	52	35.4%	36.8%
③話し合ったことはない	86	58.5%	55.1%
④無回答	1	0.7%	5.4%



問8 問7で「1」または「2」と答えた方におうかがいします。どなたと話し合いましたか。(複数回答)

選択肢	回答数	割合	全国調査
①家族・親族	58	96.7%	94.3%
②友人・知人	9	15.0%	14.6%
③医療介護関係者	4	6.7%	4.2%
④その他	2	3.3%	2.6%
⑤無回答	0	0.0%	1.3%



(その他意見)

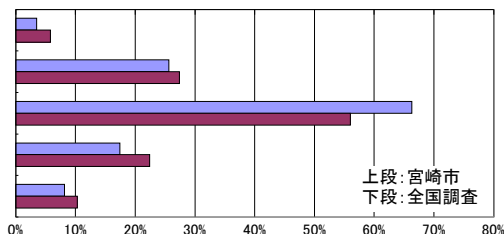
・婚約者

・介護施設の職員と話し合った。時間は15分から30分と短く、教科書的説明で市民として納得できるものではなかった。脈拍が110で激しい運動をしているようなものです、との説明に90才の平均的脈拍はいくらか問いかけたが説明なし。食が細いので少量で栄養価の高い食物はないか問うたが十分な説明なし。

問9 問7で「3」と答えた方におうかがいします。これまでに話し合ったことがない理由は何ですか。

(複数回答)

選択肢	回答数	割合	全国調査
①話し合いたくないから	3	3.5%	5.8%
②話し合う必要性を感じていないから	22	25.6%	27.4%
③話し合うきっかけがなかったから	57	66.3%	56.0%
④何を話し合っているかわからないから	15	17.4%	22.4%
⑤その他	7	8.1%	10.3%

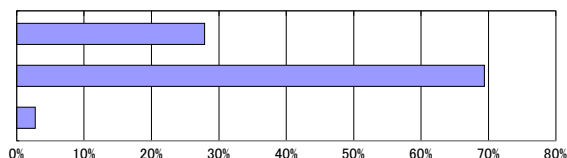


(その他意見)

- ・まだ「終活」の年齢ではないため。
- ・自分の生き方(死に方)をしっかり確立させてから話します。今考えています。残された私の時間をどう生きていくかを。
- ・まだ子供も小さく、仕事が忙しく話し合う時間がとれない。
- ・まだ話す時期の必要性を感じていないから。
- ・家族に病人や高齢者がいないから。
- ・まだ自分の終末期医療は考えていなかったから。自分としては、治る見込みがなかったら治療を止めてほしいが、痛みがあるなら痛み止めは打ってほしい。

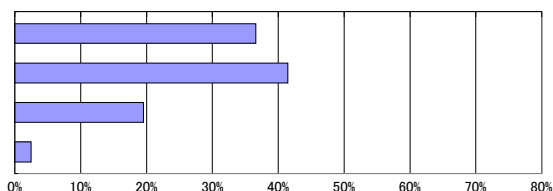
問10 自分が意思決定できなくなった時に備えて、自分の医療・療養に関する方針を決めてほしいと思う人(代理人)を選定していますか。(わたしの想いをつなぐノートの5ページに記載する場所があります。)

選択肢	回答数	割合
①選定している	41	27.9%
②選定していない	102	69.4%
③無回答	4	2.7%



問11 問10で「1」と答えた方におうかがいします。選定された方はあなたの希望について、どの程度知っていると思いますか。

選択肢	回答数	割合
①十分に知っていると思う	15	36.6%
②知っていると思う	17	41.5%
③よく知らないと思う	8	19.5%
④無回答	1	2.4%

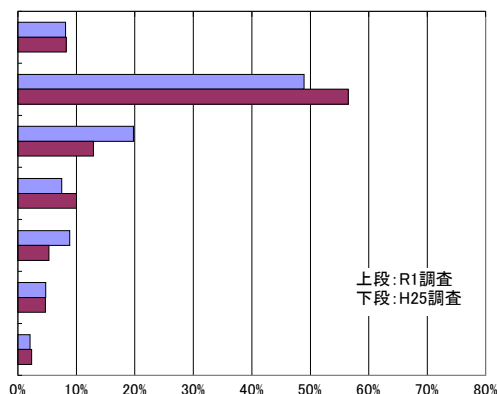


2. 人生の最終段階における医療や療養について、おうかがいします。

仮にあなたご自身が病気になり、治る見込みがなく、死が近い場合を想像してお答えください。

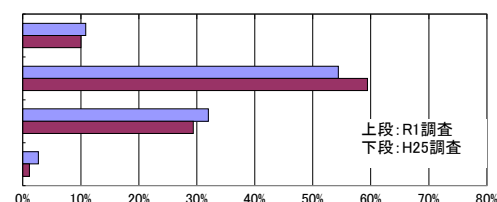
問12 どのように過ごしたいと思いますか。

選択肢	回答数	割合	H25調査
①なるべく今まで通っていた医療機関に入院したい	12	8.2%	8.2%
②自宅で療養して、必要になれば医療機関に入院したい	72	49.0%	56.5%
③自宅で最期まで療養したい	29	19.7%	12.9%
④専門的医療機関で積極的に治療を受けたい	11	7.5%	10.0%
⑤施設に入所したい	13	8.8%	5.3%
⑥その他	7	4.8%	4.7%
⑦無回答・無効回答	3	2.0%	2.4%



問13 自宅で最期まで療養できるとお考えになりますか。

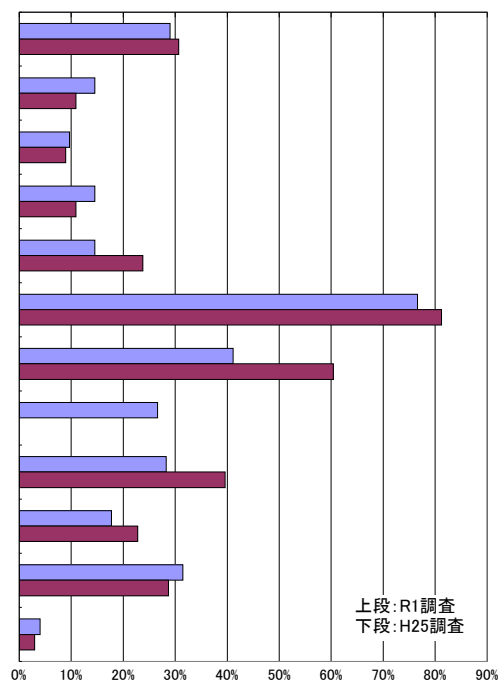
選択肢	回答数	割合	H25調査
①実現可能である	16	10.9%	10.0%
②実現困難である	80	54.4%	59.4%
③わからない	47	32.0%	29.4%
④無回答	4	2.7%	1.2%



問14 問13で「2」または「3」と答えた方におうかがいします。それはどうしてですか。(複数回答)

※割合は、無回答3人を除いた124人で計算。

選択肢	回答数	割合	H25調査
①往診してくれるかかりつけの医師がいないから	36	29.0%	30.7%
②訪問看護(看護師の訪問)体制が整っていないから	18	14.5%	10.9%
③訪問介護(ホームヘルパーの訪問)体制が整っていないから	12	9.7%	8.9%
④24時間相談にのってくれるところがないから	18	14.5%	10.9%
⑤介護してくれる家族等がいないから	18	14.5%	23.8%
⑥介護してくれる家族等に負担がかかるから	95	76.6%	81.2%
⑦症状が急に悪くなった時の対応に自分も家族等も不安であるから	51	41.1%	60.4%
⑧症状が急に悪くなった時に、すぐに医師や看護師の訪問が受けられるか不安であるから	33	26.6%	
⑨症状が急に悪くなった時に、すぐ病院に入院できるか不安であるから	35	28.2%	39.6%
⑩住居環境が整っていないから	22	17.7%	22.8%
⑪経済的に負担が大きいから	39	31.5%	28.7%
⑫その他	5	4.0%	3.0%

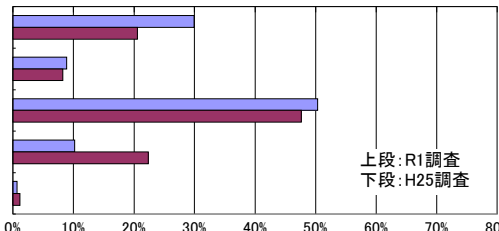


(その他意見)

- ・山の中に住んでいて市内中央までは1時間かかるので
- ・自分が義母をずっと看病等して大変だったから家族に負担をかけたくない
- ・どのような状況になるか見込めないから。
- ・アパート住まいだから。
- ・医師、訪問看護師の設備が整っていない。貧弱な機器で対応している。治療は難しい？

問15 あなたは、人生の最期(看取り)をどこで迎えたいですか。

選択肢	回答数	割合	H25調査
①医療機関	44	29.9%	20.6%
②介護施設	13	8.8%	8.2%
③自宅	74	50.3%	47.6%
④その他	15	10.2%	22.4%
⑤無回答	1	0.7%	1.2%



(その他意見)

- ・家族の負担の一番少ない場所
- ・残された者の悔いが残らない場所。
- ・場所よりも家族がそろっていてほしい。
- ・静かな海か山の近く
- ・考えていない
- ・別に気にしていない。
- ・1か2になると思うが希望は3、家族に任せる。
- ・理想は自宅だと思いますが、現実はどうかと思います。
- ・リゾート地。家では迷惑がかかるから。
- ・ホスピスへ。
- ・その時の状況で判断する。
- ・特にこだわらない。
- ・それまでに自分が望んだ場所。
- ・分からない。

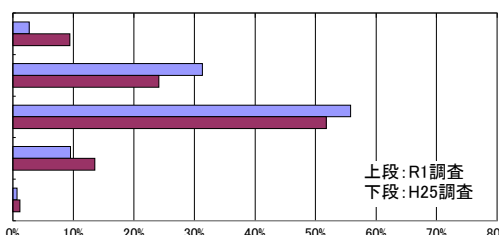
問16 あなたは延命治療を望みますか。

ここでいう延命治療とは、治る見込みがなく死期が迫っている方に対し、人工呼吸器や中心静脈栄養※2、胃ろう※3等、生命維持のためのみ行うものを指します。

※2 中心静脈栄養とは、口から十分な栄養をとれなくなった場合、血管から栄養を補給する方法。

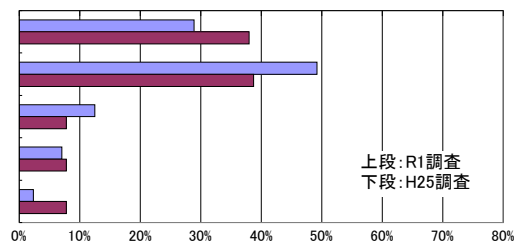
※3 胃ろうとは、口から十分な栄養をとれなくなった場合、胃に穴を開け、管をつないで流動食を入れる方法。

選択肢	回答数	割合	H25調査
①延命治療を望む	4	2.7%	9.4%
②どちらかという延命治療は望まない	46	31.3%	24.1%
③延命治療は望まない	82	55.8%	51.8%
④わからない	14	9.5%	13.5%
⑤無回答	1	0.7%	1.2%



問17 問16で「2」または「3」と答えた方におうかがいします。それはどうしてですか。

選択肢	回答数	割合	H25調査
①長い間苦しみたくない	37	28.9%	38.0%
②家族に迷惑をかける	63	49.2%	38.8%
③経済的に負担をかける	16	12.5%	7.8%
④その他	9	7.0%	7.8%
⑤無効回答	3	2.3%	7.8%

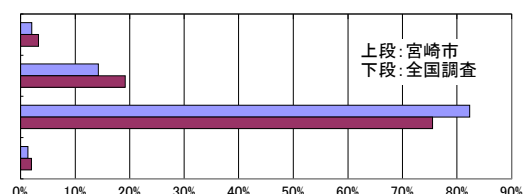


(その他意見)

- ・意識がスーッと消えてくような終わり方をしたいから。
- ・延命治療の現場での職務があったから。
- ・延命に人生の意味を感じないから。
- ・治る見込みがないのなら、治療する意味がないと考える。
- ・世の中全ては金の世界である。少しばかり長生きして命拾いしたところで得も無い。天寿を全うすればそれでいい。
- ・人は最後は死ぬので延命する意味が分からない。どのような状況になっても家族に一任します。葬式のために集まる時間くらい生きれば良いと思います。
- ・そこまでして長生きしなくてよいと思う。
- ・生きているというより生かされているだけ。
- ・延命する意味がわからない

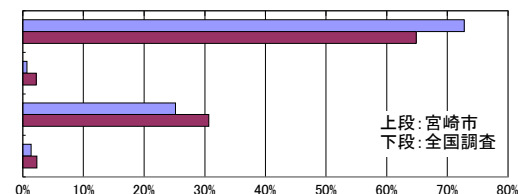
問18 あなたはアドバンス・ケア・プランニング(ACP)もしくはその愛称「人生会議」について、知っていますか。

選択肢	回答数	割合	全国調査
①よく知っている	3	2.0%	3.3%
②聞いたことはあるが、よく知らない	21	14.3%	19.2%
③知らない	121	82.3%	75.5%
④無回答	2	1.4%	2.0%



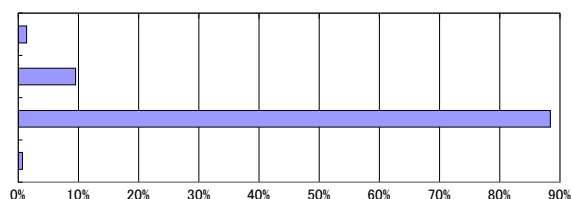
問19 人生の最終段階の医療・療養について、本人の意思に沿った医療・療養を受けるためには、ご家族等や医療介護関係者等とあらかじめ話し合い、また繰り返し話し合うこと(アドバンス・ケア・プランニング<ACP>)が重要とされています。このような話し合いを進めることについて、あなたはどのように思いますか。

選択肢	回答数	割合	全国調査
①賛成である	107	72.8%	64.9%
②反対である	1	0.7%	2.2%
③わからない	37	25.2%	30.7%
④無回答	2	1.4%	2.3%



問20 厚生労働省では、11月30日を「人生会議の日」として、人生の最終段階における医療・ケアについて考える日としています。このことについて知っていますか。

選択肢	回答数	割合
①よく知っている	2	1.4%
②聞いたことはあるが、よく知らない	14	9.5%
③知らない	130	88.4%
④無回答	1	0.7%



「ロコモティブシンドローム」に関するアンケート調査 集計結果

◆調査の目的

加齢により骨、関節、筋肉などの運動器の働きが衰え、立ったり、歩いたりする日常動作に支障をきたす状態を『ロコモティブシンドローム(運動器症候群)』といい、要介護状態に陥る原因の一つといわれています。平成24年7月に発表された厚生労働省の「健康日本21(第2次)」において、ロコモティブシンドロームの認知率を平成34年には80%にすると目標が設定されており、全国各地で予防啓発活動が広がっています。本市でも、住民のロコモティブシンドロームの認知度等を調査することにより、現状を把握し、今後の周知活動や市民の行動変容を促す参考とします。

◆調査の概要

- | | |
|-----------|---------------------------------------|
| (1) 調査期間 | 令和元年10月10日 ~ 令和元年10月30日 |
| (2) モニター数 | 163人 |
| (3) 回答者数 | 147人(90.18%) (郵送モニター 112人、e-モニター 35人) |
| (4) 担当課 | 健康管理部 健康支援課 |

◆調査結果考察

〇【問1】ロコモティブシンドローム(運動器症候群)という言葉やその意味を知っているかについては、全体では、おおそ理解ができて「理解」が62.6%、「理解」の人も含め、少なくとも言葉は聞いたことがある「認知」は92.6%であり、理解・認知ともにH30年度より高くなっている。
性別では女性の方が男性より、「理解」「認知」ともに高かった。年齢差については、「認知」は高齢者の方があきらかに高いが、「理解」はそれほど差が見られなくなっている。
全国調査(※1)は、「理解」18.7%、「認知」44.8%であった。本市は全国より、「理解」「認知」ともかなり高く、性別、年代別で比較してもすべて同様であった。

〇【問2】どのような方法で、「理解」や「認知」ができたかについては、「テレビ・ラジオ・新聞・雑誌等で知った」が、48.3%と最も多かった。次いで「医師や専門職等からの話を聞いて知った」が、17.7%となっている。また、「ロコモ検診を受けたことがある」という人が11.6%であり、H30年度の7.8%から上昇しており、継続的な周知や研修等の影響も大きいと考えられる。

〇【問3】ロコモティブシンドロームにどの程度不安を感じるかについて、市全体では、「すでに、自分はロコモティブシンドロームに該当する」が2.0%であり、「不安をかなり感じる」「不安をやや感じる」を含めた「該当or不安あり」が68.7%であった。性別、年代別でもすべて、「該当or不安あり」が「不安なし」より高かった。
全国調査では、「不安をあまり感じない」「不安を感じることはない」の「不安なし」が57.8%であり、本市は全国調査に比べ不安を感じている人が多いことが分かった。H30年度も同様の結果が得られている。

〇【問4】「ロコチェック」該当状況では、「片脚立ちで靴下が履けない」が15.6%、「階段を上るのに手すりが必要である」が14.3%、「家の中でつまづいたり滑ったりする」が10.9%と上位3項目は昨年と同様であった。また、上位3つの項目は、全国調査でも同じであった。

〇【問5】「ロコモ」要因の認知については、すべての項目について、全国より高いことが分かった。ロコモの要因まで認知が進んでいることが明らかになった。また、ほとんどの項目について男性より女性のほうが認知度が高かった。

〇【問6】運動習慣については、「運動習慣なし」が63.2%と6割を超えており、全国と比較しても同様の結果であることが分かった。

〇【問7】宮崎市でロコモ検診を実施していることについては47.6%の人が認知していたが、まだ約半数の人が認知していない状況が分かった。

〇【問8】ロコモ検診を知ったきっかけは「チラシ・市ホームページ・市広報等で知った」が38.1%と最も高い事がわかった。多くの方が目にする広報等の活用が有効であることが分かった。

〇【問9】ロコモ検診を受けたいと思う人は63.9%と6割を超えており、受診したいと感じている人が多いことが分かった。更なる検診の周知や回数・会場の見直しも含め多くの方に受診機会を得られるような検診にしていきたいと感じた。

※1 「ロコモティブシンドローム」認知度調査 報告書 2019.4.9

一般財団法人 運動器の10年・日本協会

マクロミルモニター人口構成比と合わせた20代から60代以上の男女(全国) 10,000サンプル

◆調査結果まとめ

ロコモティブシンドロームに対する理解状況や認知状況は、年々高まっていることが分かった。
近年の調査では、本市での認知率は9割を超えており、国が目標に掲げている認知率80%を超えている。一過性ではなく継続的に周知を続けていることが高い認知度を維持できている要因であると考えられる。
その一方で、認知が高まっているからこそロコモティブシンドロームへの不安感を感じる人も増加しているものと思われる。不安感を感じている人が実際に検診を受診し不安を解消したり、軽減に向けた取り組みについて知ることができるよう効果的な検診のあり方についても検討が必要だと考えられる。
そのためにも、今後も継続して宮崎大学医学部整形外科と共催し、ロコモ検診をはじめロコモティブシンドロームの予防対策を進めていきたいと考える。

◎ 調査結果

- ◎ 集計結果の数値(%)は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の構成比の合計が100%にならない場合がある。複数回答の設問は、構成比が100%を超える。
- ◎ 全国調査とは、一般財団法人 運動器の10年・日本協会が、2017年3月21日～3月22日に実施した、「ロコモティブシンドローム」認知度調査報告書(マクロミルモニタ人口構成比と合わせた20代から60代以上の全国男女10,000サンプル)を参照。

1.「ロコモティブシンドローム」について、お伺いします

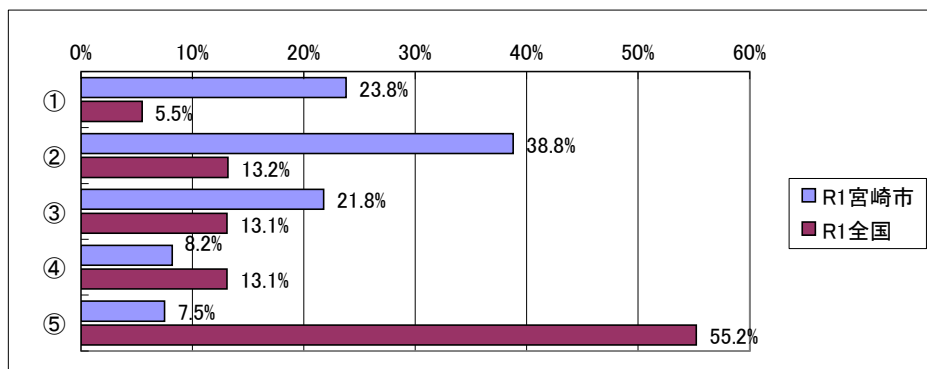
問1 「ロコモティブシンドローム」認知状況

ロコモティブシンドローム(運動器症候群)という言葉やその意味を知っていますか。
あてはまるものを1つ選んでください。

1) 全体

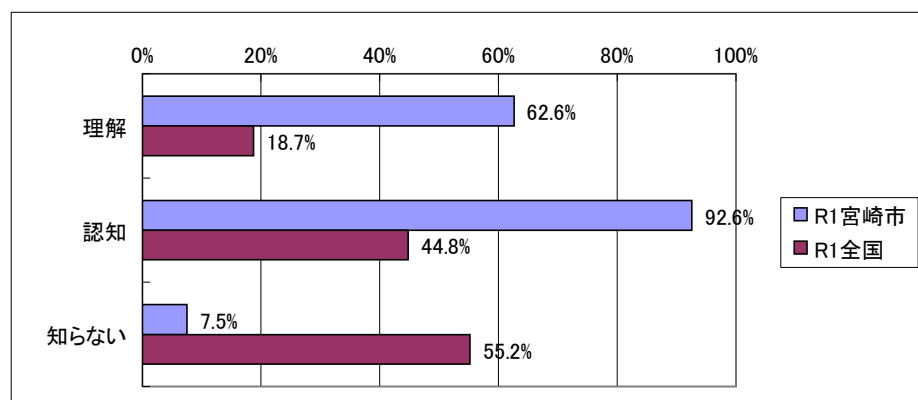
(%)

選択肢(回答者数=153人)	H30宮崎市	R1宮崎市	H30全国調査	R1全国調査
①言葉も意味もよく知っていた	24.2	23.8	5.5	5.5
②言葉も知っていたし、意味も大体知っていた	36.6	38.8	14.8	13.2
③言葉は知っていたが、意味はあまり知らなかった	22.9	21.8	13.7	13.1
④言葉は聞いたことがあるが、意味は知らなかった	8.5	8.2	14.1	13.1
⑤言葉も意味も知らなかった(今回初めて聞いた場合を含む)	7.8	7.5	51.9	55.2



- ★ ①②を選択した人⇒「理解」 ロコモティブシンドロームをおおよそ理解できている
 ★ ①②③④を選択した人⇒「認知」 少なくとも言葉は聞いたことがあり認知はできている
 ★ ⑤を選択した人⇒「知らない」

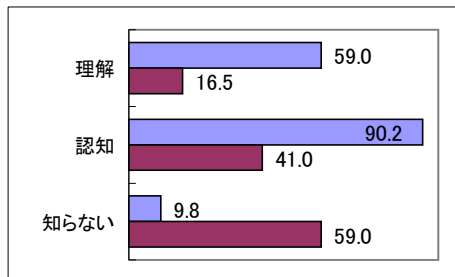
R1比較	理解	認知	知らない
H30宮崎市	60.8%	92.2%	7.8%
R1宮崎市	62.6%	92.6%	7.5%
R1全国	18.7%	44.8%	55.2%



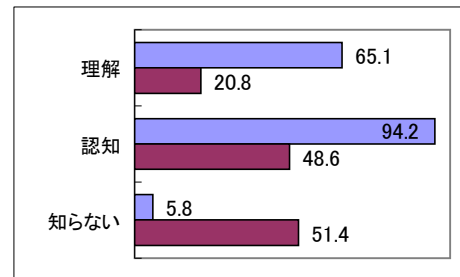
①言葉も意味もよく知っていた	理解	認知
②言葉も知っていたし、意味も大体知っていた		
③言葉は知っていたが、意味はあまり知らなかった		
④言葉は聞いたことがあるが、意味は知らなかった		
⑤言葉も意味も知らなかった(今回初めて聞いた場合を含む)	知らない	

【R1年度 宮崎市と全国の比較】 上段:宮崎市 下段:全国

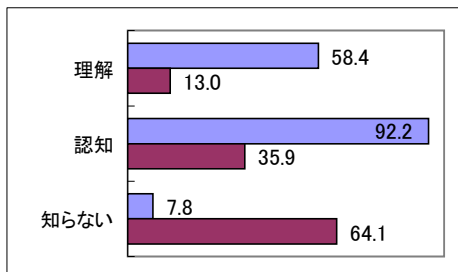
2)－1 性別(男性)



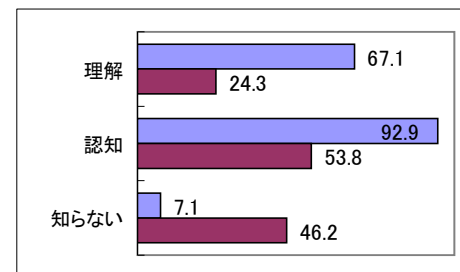
2)－2 性別(女性)



3)－1 年代別(20～40代男女計)

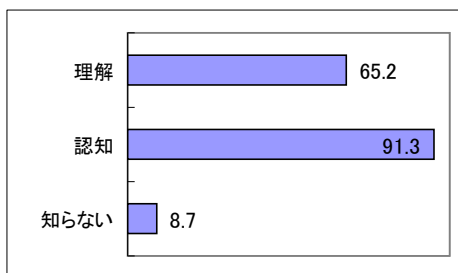


3)－2 年代別(50代以上男女計)

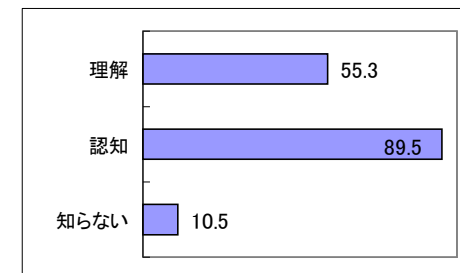


【R1年度 宮崎市における年代・性別比較】

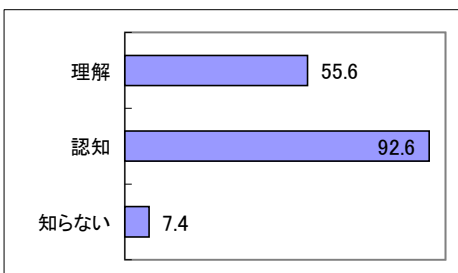
3)－3 年代別(20～40代男性)



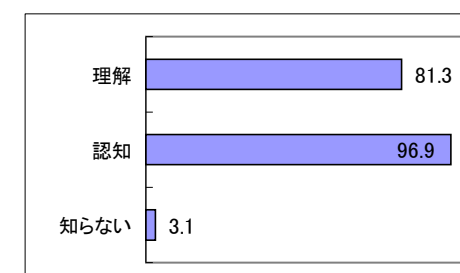
3)－4 年代別(50代以上男性)



3)－5 年代別(20～40代女性)



3)－6 年代別(50代以上女性)



問2 理解や認知の把握方法

問1で「言葉も意味も知っている、言葉も知っているし、意味も大体知っている」と回答した人にお伺いします。あてはまるものを選んでください。 ※複数回答

(%)

選択肢(R1回答者数=96人)	H30宮崎市	R1宮崎市	H30全国調査
①ロコモ検診を受けたことがある。	7.8	11.6	
②ロコモメイト(ロコモサポーター)養成講座を受けたことがある。または申し込んでいる	5.2	4.8	
③テレビ・ラジオ・新聞・雑誌等で知った	47.7	48.3	
④医師や専門職等からの話を聞いて知った	24.2	17.7	
⑤家族や友人等、周囲の人から話を聞いて知った	11.8	7.5	
⑥その他の手段で知った	3.9	4.1	

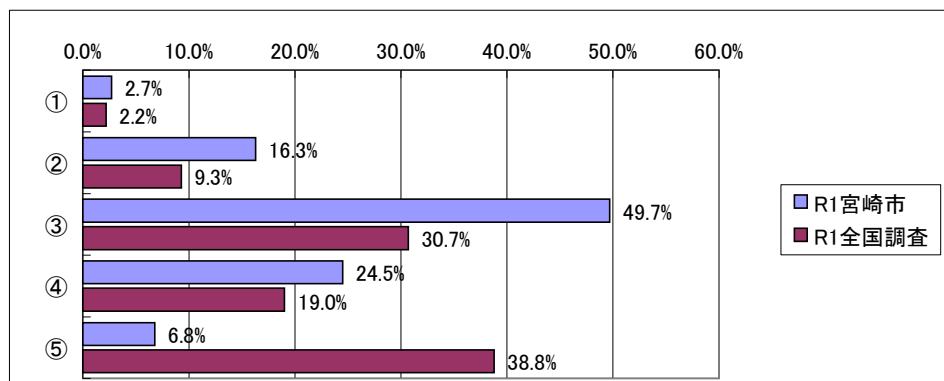
問3 「ロコモティブシンドローム」不安感の有無

あなたご自身は「ロコモティブシンドローム」にどの程度不安を感じますか。
あてはまるものを1つ選んでください。

1) 全体

(%)

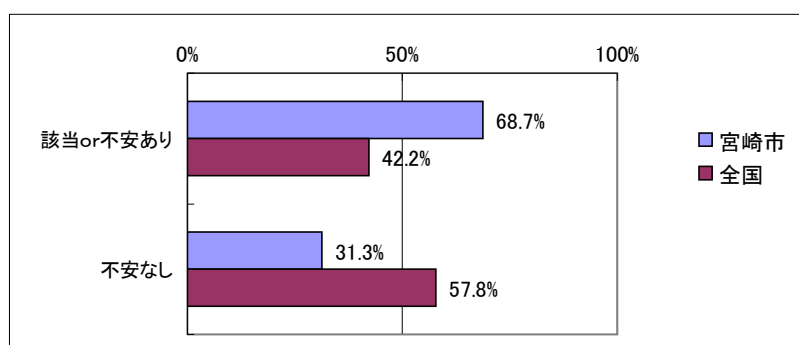
選択肢(R1回答者数=147人)	H30宮崎市	R1宮崎市	H30全国調査	R1全国調査
①すでに自分は「ロコモティブシンドローム」に該当する	6.5	2.7	2.0	2.2
②将来、「ロコモティブシンドローム」になる不安をかなり感じる	16.3	16.3	8.8	9.3
③将来、「ロコモティブシンドローム」になる不安をやや感じる	46.4	49.7	31.9	30.7
④将来、「ロコモティブシンドローム」になる不安をあまり感じない	15.7	24.5	18.4	19.0
⑤不安を感じることはない	13.1	6.8	38.9	38.8



★①②③を選択した人⇒「該当or不安あり」すでにロコモティブシンドロームに該当すると回答した人または不安感がある人

★④⑤を選択した人⇒「不安なし」

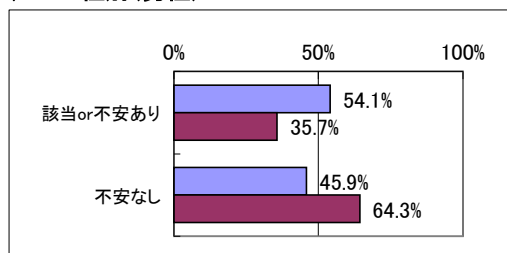
R1比較	該当or不安あり	不安なし
宮崎市	68.7%	31.3%
全国	42.2%	57.8%



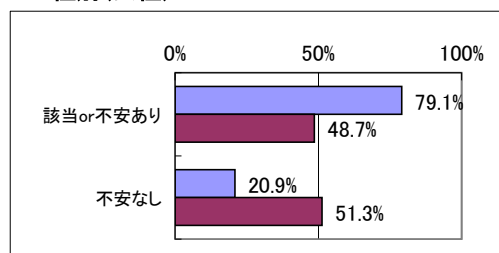
①すでに自分は「ロコモティブシンドローム」に該当する	該当or不安あり
②将来、「ロコモティブシンドローム」になる不安をかなり感じる	
③将来、「ロコモティブシンドローム」になる不安をやや感じる	
④将来、「ロコモティブシンドローム」になる不安をあまり感じない	不安なし
⑤不安を感じることはない	

【R1年度 宮崎市と全国の比較】 上段:宮崎市 下段:全国

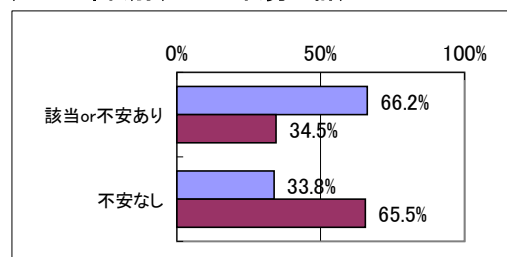
2)－1 性別(男性)



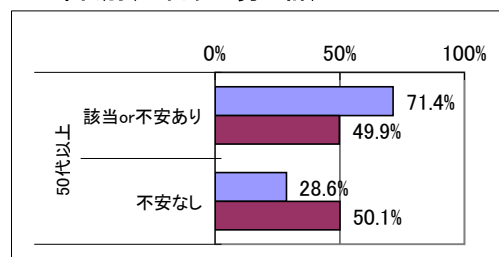
2)－2 性別(女性)



3)－1 年代別(20～40代男女計)

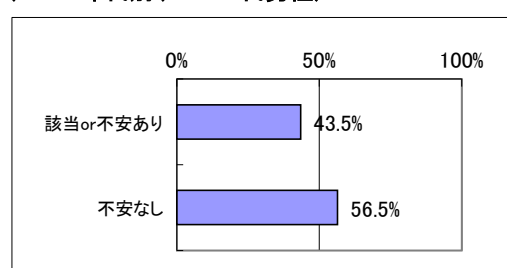


3)－2 年代別(50代以上男女計)

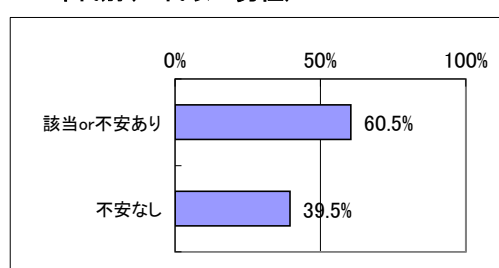


【R1年度 宮崎市における年代・性別比較】

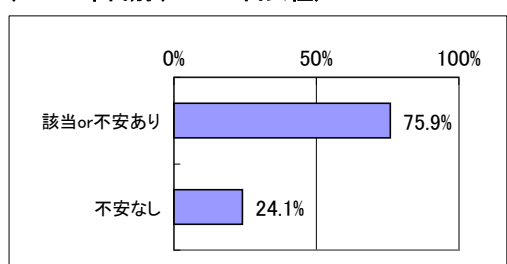
3)－3 年代別(20～40代男性)



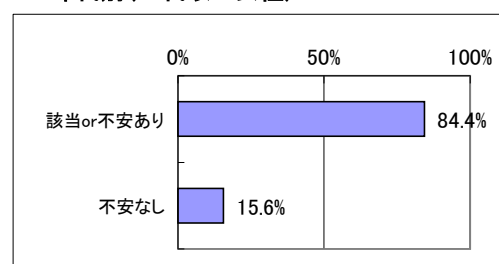
3)－4 年代別(50代以上男性)



3)－5 年代別(20～40代女性)



3)－6 年代別(50代以上女性)

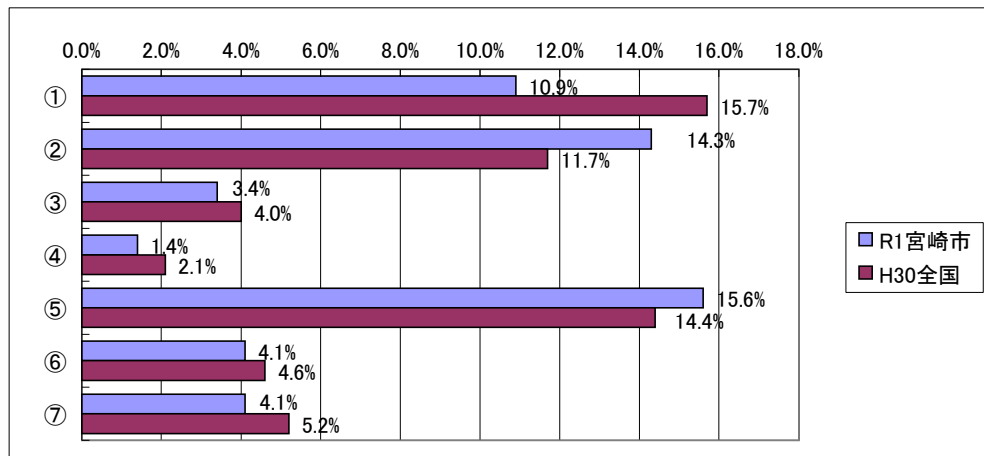


問4 「ロコチェック」該当状況

以下は「ロコチェック」と呼ばれるチェック項目です。あてはまるものをすべて選んでください。 ※複数回答

(%)

選択肢 (R1 回答者数=49人)	H30宮崎市	R1宮崎市	H30全国調査	R1全国調査
①家の中でつまづいたり滑ったりする	11.8	10.9	15.8	15.7
②階段を上るのに手すりが必要である	14.4	14.3	11.8	11.7
③15分くらい続けて歩けない	2.6	3.4	3.8	4.0
④横断歩道を青信号で渡りきれない	1.3	1.4	2.0	2.1
⑤片脚立ちで靴下が履けない	15.7	15.6	14.0	14.4
⑥2kg程度の買い物をして持ち帰るのが困難である	5.2	4.1	4.2	4.6
⑦家のやや重い仕事(掃除機の使用、布団の上げ下ろしなど)が困難である	3.9	4.1	5.0	5.2



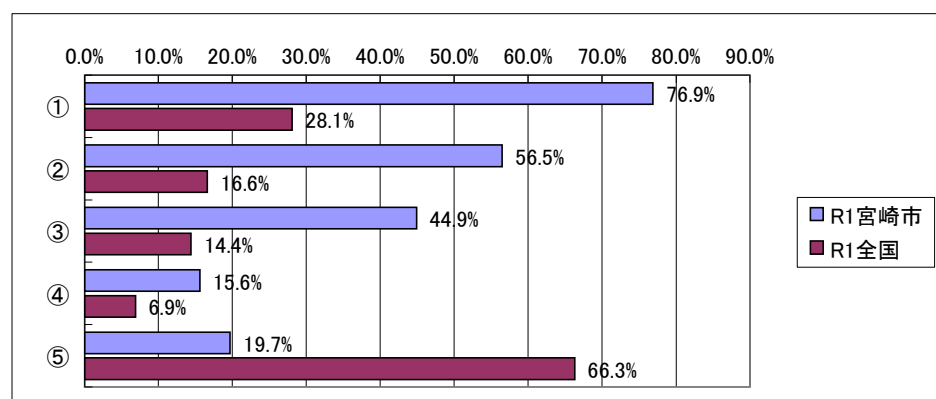
問5 「ロコモ」要因の認知

あなたは、以下のことが「ロコモティブシンドローム」の要因であることをご存知でしたか。あてはまるものをすべて選んでください。 ※複数回答

1) 全体

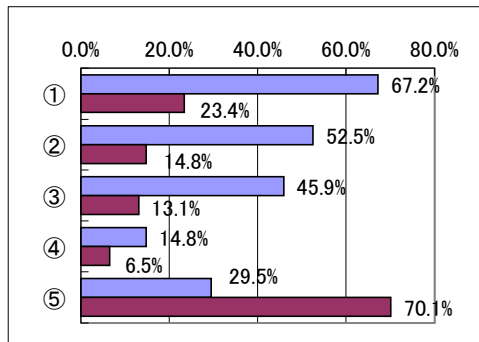
(%)

選択肢 (R1 回答者数=147人)	H30宮崎市	R1宮崎市	H30全国調査	R1全国調査
①「筋力低下」が「ロコモ」の要因であることを知っていた	70.6	76.9	28.8	28.1
②「バランス能力の低下」が「ロコモ」の要因であることを知っていた	54.9	56.5	18.0	16.6
③「関節の動く範囲の縮小」が「ロコモ」の要因であることを知っていた	33.3	44.9	15.2	14.4
④「疼痛」が「ロコモ」の要因であることを知っていた	8.5	15.6	6.9	6.9
⑤ひとつも知らなかった	21.6	19.7	65.5	66.3

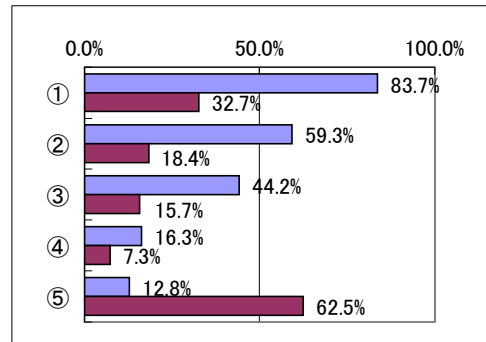


【R1年度 宮崎市と全国の比較】 上段:宮崎市 下段:全国

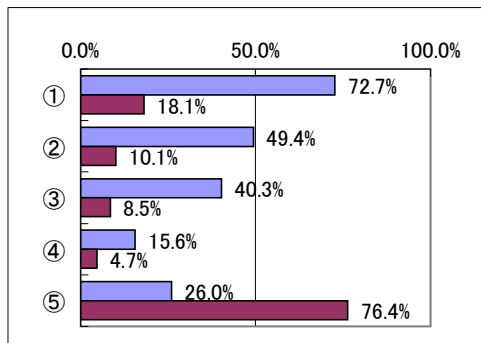
2)－1 性別(男性) ※複数回答



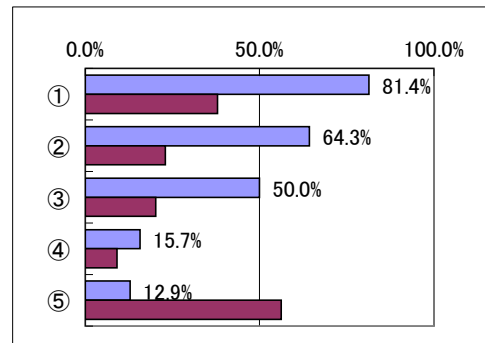
2)－2 性別(女性) ※複数回答



3)－1 年代別(20～40代男女計)※複数回答

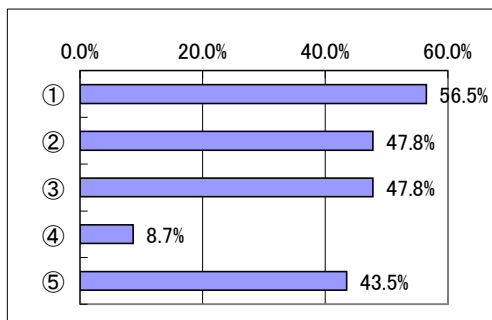


3)－2 年代別(50代以上男女計)※複数回答

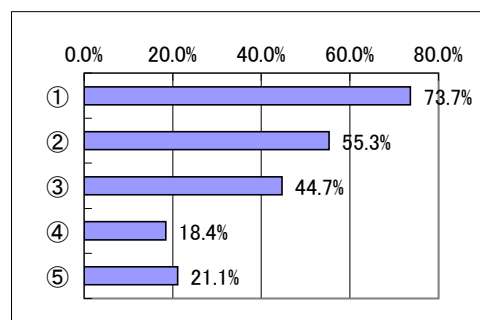


【R1年度 宮崎市における年代・性別比較】

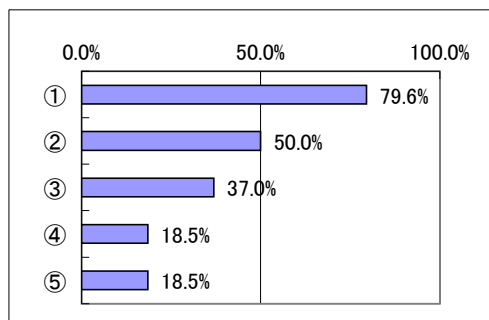
3)－3 年代別(20～40代男性) ※複数回答



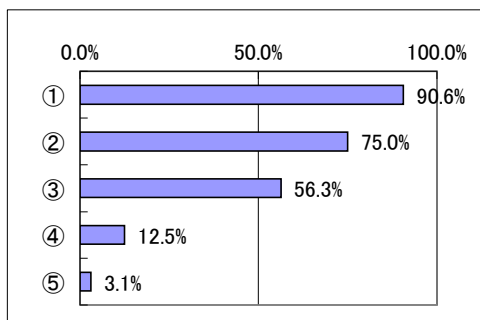
3)－4 年代別(50代以上男性) ※複数回答



3)－5 年代別(20～40代女性) ※複数回答



3)－6 年代別(50代以上女性) ※複数回答



問6 運動習慣の有無

1回30分以上の軽く汗をかく運動を、週2日以上の頻度で、1年以上実施しているか。

(%)

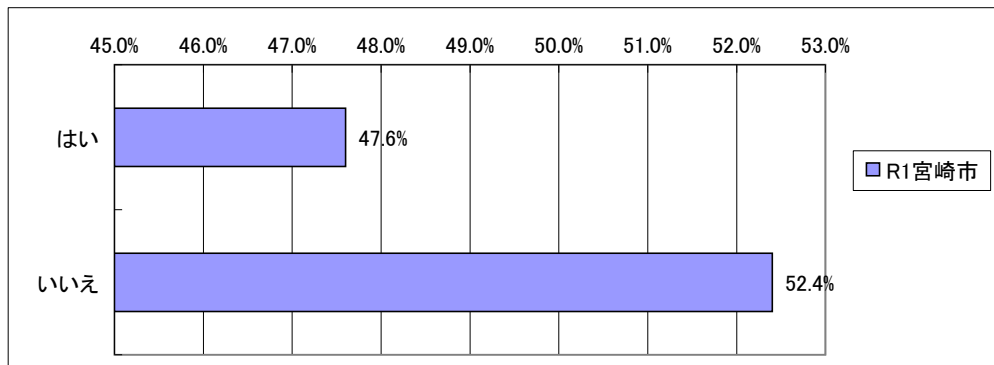
選択肢(R1回答者数＝147人)	H30宮崎市	R1宮崎市
はい	36.8	38.8
いいえ	63.2	61.2

問7 宮崎市の「ロコモ検診」の認知

宮崎市でロコモ検診を実施していることを知っているか。

(%)

選択肢 (R1 回答者数＝147人)		H30宮崎市	R1宮崎市
はい			47.6
いいえ			52.4



問8 ロコモ検診を知ったきっかけ

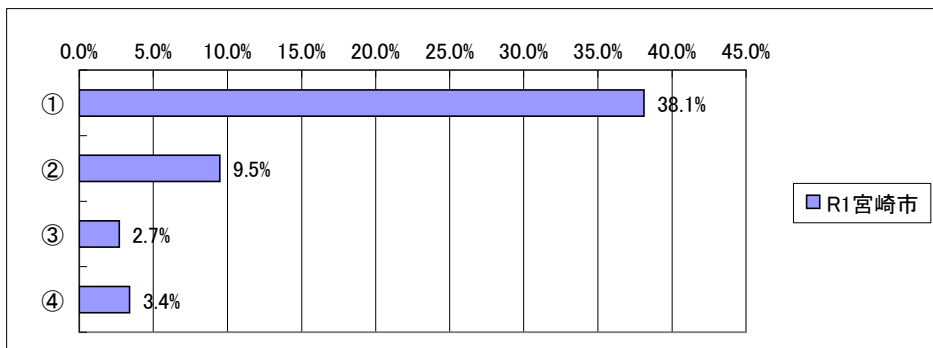
どこでロコモ検診を知りましたか。

あてはまるものをすべて選んでください。 ※複数回答

1) 全体

(%)

選択肢 (R1 回答者数＝68人)		H30宮崎市	R1宮崎市
①チラシ・市ホームページ・市広報等で知った			38.1
②医師や専門職等からの話を聞いて知った			9.5
③家族や友人等、周囲の人から話を聞いて知った			2.7
④その他の手段で知った			3.4

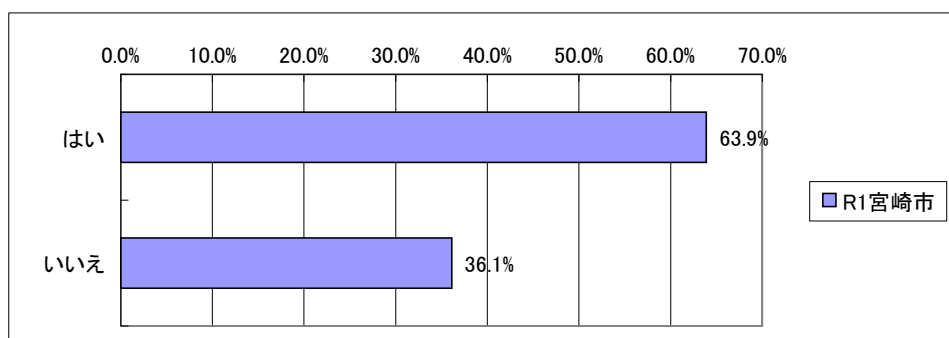


問9 ロコモ検診の受診意欲

あなたはロコモ検診を受けたいと思いますか。

(%)

選択肢 (R1 回答者数＝147人)		H30宮崎市	R1宮崎市
はい			63.9
いいえ			36.1



「宮崎市田野町のイメージ」に関するアンケート調査 集計結果

◆調査の目的

本市では、田野町の地域活性化を目的に、田野町の伝統的な農業システムを日本農業遺産として認定してもらうための取り組みが行われている。この活動は、平成29年より推進されており、宮崎市田野町のイメージ、また、日本農業遺産への取り組みの認知度を調査することにより、今後の日本農業遺産の認定に向けた活動の参考指標とする。

◆調査の概要

- | | |
|----------|-------------------------------------|
| (1)調査期間 | 令和元年10月10日 ～ 令和元年10月30日 ※終了後も一定期間回収 |
| (2)モニター数 | 163人 |
| (3)回答者数 | 147人（回答率90.18%） |
| (4)担当課 | 田野総合支所 農林建設課 |

◆調査結果考察

1. 宮崎市田野町へのアクセスについて

田野町へはほぼ100%に近い割合で、自家用車で訪れる方が多く、田野町を目的に訪れるよりも、日南市、都城市への通過点として認識される方が多い結果となった。今後は、田野町を目的として訪れてもらうための取り組みを強化する必要がある。

2. 宮崎市田野町へのイメージについて

「干し大根（漬物大根）」と「大根やぐら」のイメージが強いとの結果になった。あらためて漬物の町という認識をもった。「大根やぐら」を地域の宝として、日本農業遺産認定を目指す。

3. 宮崎市田野町の冬のシンボル「大根やぐら」について

日本一の干し大根と大根やぐら日本農業遺産推進協議会は平成29年4月に設立され、日本農業遺産認定にむけて取り組んでいるが、活動に対しての知名度が低い結果となった。

自由意見でもあったように、まずは、地域住民の機運情勢をおこない、県、JA、地元農家を含め多様な主体が一丸となって取組む必要がある。また、HPやメディア等により、より多くの情報を発信していけるよう検討が必要である。



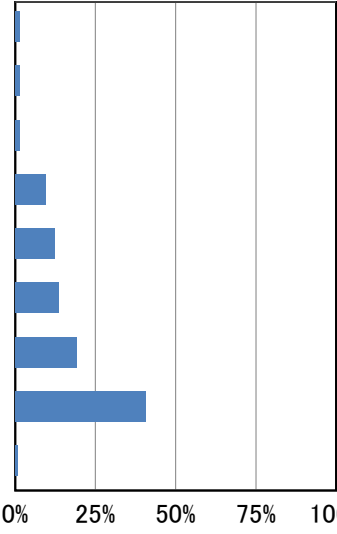
HP: <http://www.daikon-o1.jp/>

QRコード



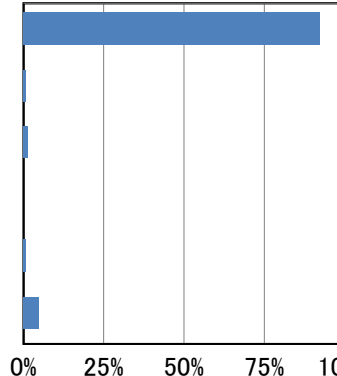
問1 日ごろより田野町には、どのぐらいの頻度で訪れますか。
あてはまるものを1つ選んでください。

選択肢	回答数	構成比
1 毎日	2	1.4%
2 2, 3日に1回程度	2	1.4%
3 1週間に1回程度	2	1.4%
4 1ヶ月に1回程度	14	9.5%
5 2, 3ヶ月に1回程度	18	12.2%
6 半年に1回程度	20	13.6%
7 1年に1回程度	28	19.0%
8 ここ数年は訪れていない	60	40.8%
9 無回答	1	0.7%
計	147	100%



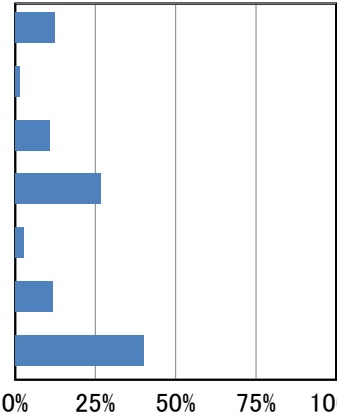
問2 田野町に訪れる際、主にどのような交通手段を利用しますか。
あてはまるものを1つ選んでください。

選択肢	回答数	構成比
1 自家用車	136	92.5%
2 電車（JR）	1	0.7%
3 バス	2	1.4%
4 タクシー	0	0.0%
5 その他	1	0.7%
6 無回答	7	4.8%
計	147	100%



問3 主にどのような用事で訪れましたか。
あてはまるものをすべて選んでください（複数回答可）。

選択肢	回答数	構成比
1 仕事	18	12.2%
2 病院	2	1.4%
3 観光	16	10.9%
4 食事、買い物	39	26.5%
5 帰郷（冠婚葬祭含む）	4	2.7%
6 イベントへの参加	17	11.6%
7 その他	59	40.1%
計	155	105%

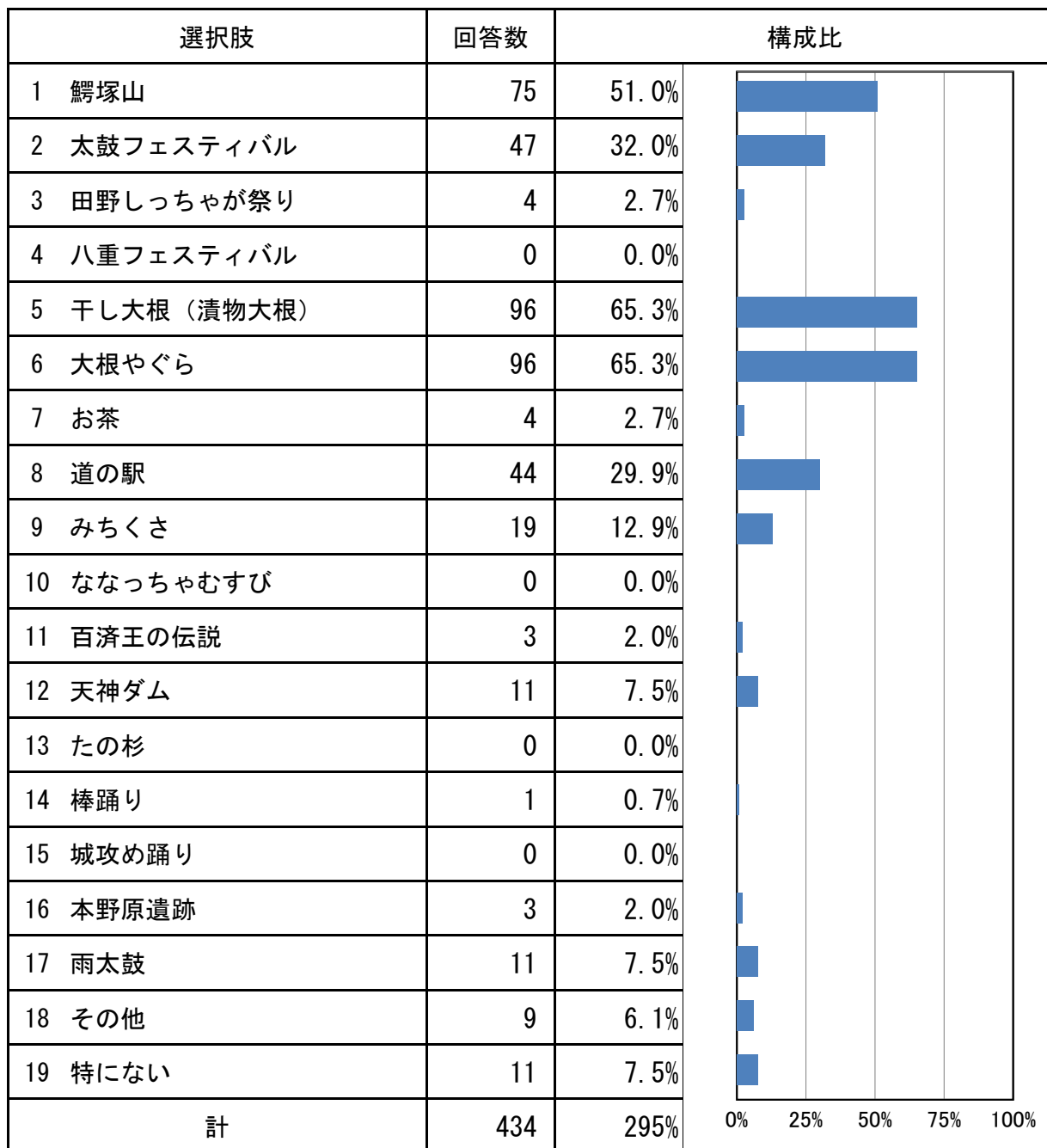


○その他意見

- ・通過点
- ・友人、知人
- ・部活、スポーツ大会

2.「宮崎市田野町へのイメージ」について、おうかがいします。

問4 「田野町」と聞いてどのような「まち」のイメージを持っていますか。
あてはまるものをすべて選んでください(複数回答可)。



○その他意見

- ・雨が降る
- ・田舎
- ・田野病院

3. 宮崎市田野町の冬のシンボル「大根やぐら」について、おうかがいします。

問5 現在、田野町では、冬の風物詩である「大根やぐら」をシンボルに日本農業遺産認定に向けて取り組んでいることをご存知ですか。

選択肢	回答数	構成比	
1 知っている	33	22.4%	
2 知らなかった	109	74.1%	
3 無回答	5	3.4%	
計	147	100%	

問6 今年の1月に「宮崎ブーゲンビリア空港」にてPRイベントが開催されていたのをご存知ですか。

選択肢	回答数	構成比	
1 知っており、イベントにも参加した。	9	6.1%	
2 知っていたが、イベントには参加していない。	30	20.4%	
3 知らなかった。	104	70.7%	
4 無回答	4	2.7%	
計	147	100%	

問7 今後、日本農業遺産認定に向けたPRイベントを開催するにあたり、どのような場所が効果的だと思いますか。
あてはまるものをすべて選んでください(複数回答可)。

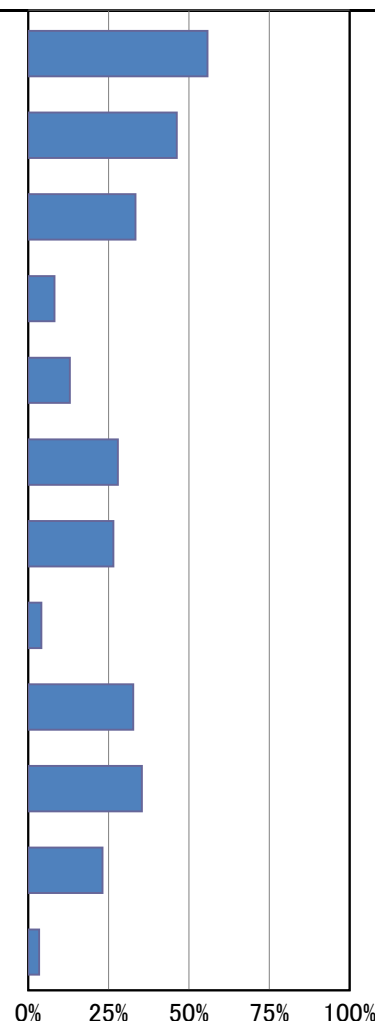
選択肢	回答数	構成比	
1 宮崎ブーゲンビリア空港	81	55.1%	
2 宮崎駅	58	39.5%	
3 宮交シティ	39	26.5%	
4 KITTENビル	15	10.2%	
5 イオンモール宮崎	112	76.2%	
6 生産農家の農地	23	15.6%	
7 市外	12	8.2%	
8 県外	39	26.5%	
9 その他	13	8.8%	
計	392	267%	

○その他意見

- ・SNS
- ・フローランテ
- ・国外

問7 今後、日本農業遺産認定に向けてどのような取り組みが効果的だと思いますか。
あてはまるものをすべて選んでください(複数回答可)。

選択肢	回答数	構成比
1 P Rイベントの充実	82	55.8%
2 観光客向けの農業体験ツアー	68	46.3%
3 学校給食に 新メニューとしての提供	49	33.3%
4 学生向けの出前講座	12	8.2%
5 マスコット（ゆるキャラ等） の提供	19	12.9%
6 H P（ホームページ）等の 広報の充実	41	27.9%
7 空き家を利用した農泊	39	26.5%
8 講師を招聘しての シンポジウム	6	4.1%
9 生産農家の雇用確保・後継者 育成	48	32.7%
10 民間企業とのコラボ	52	35.4%
11 学術機関（大学、高校等）と のコラボ	34	23.1%
12 その他	5	3.4%
計	455	310%



○その他意見

- ・認定済みのところを調査する
- ・干し大根の料理教室を開く
- ・マスコミへのアピール

4. 最後に、おうかがいします。

問8 市が行う日本農業遺産認定に向けた活動全般について、ご意見やご提案などがあれば、自由にご記入ください。

○主な意見

- ・認定済みのところを調査する
- ・干し大根の料理教室を開く
- ・マスコミへのアピール
- ・若者農業者や農協等の多様な主体が一体となって取り組み、認定後のメリットの共有が必要。

地域コミュニティに関する市民意識調査 集計結果

◆ 調査の目的

本市では、地域自治区制度の下、地域のまちづくりを進めているが、その中心を担っているのは、地域住民の意見を調整し、市政に反映させる「地域協議会」と、地域のまちづくり活動を行う「地域まちづくり推進委員会」であるため、これらの認知度などを調査することにより、今後のまちづくり活動の参考とするものである。

◆ 調査の概要

- | | | |
|-----------|----------------------|-------------|
| (1) 調査期間 | 令和元年7月1日 ～ 令和元年7月12日 | ※終了後も一定期間回収 |
| (2) モニター数 | 166人 | |
| (3) 回答者数 | 148人 | (回答率 89.2%) |
| (4) 担当課 | 地域振興部 | 地域コミュニティ課 |

◆ 調査結果考察

【問1】の「地域活動への参加」については、83.8%の方が何らかのまちづくり活動に対して参加しているという結果だった。

【問2】の「参加動機」としては、「自主的に参加した」が最も多く、2番目に「自治会などの地域団体から依頼があったから」、3番目に「子どもや家族のために」が続き、まちづくり活動の参加者のうち、半数以上の方が自主的に参加していることが分かった。

【問3】の「地域活動に参加したことがない」と回答した16.2%の方の「参加していない理由」としては、「仕事や家事などが忙しくて参加する時間がないから」が58.3%と最も多くなっている。今後も、社会の変化に合わせた対応を検討していく必要がある。

【問4】の「どのようなことがあれば地域活動に参加したいか」に対しては、「内容」に関する意見が多く、「住民として、必要とされていることを感じられれば、積極的に参加できる」や、「子どもが主役の活動で、親や家族同伴だとい」、「その他の意見として、「役員がまわってこないのであれば何でも参加したい」などがあり、活動を工夫し、住民の地域への関心を高めるとともに、組織のあり方などを検討していく必要がある。

【問6】～【問7】の「地域協議会」については、「役割まで知っている」という方は29.1%で昨年度よりも3.3ポイント増加し、「役割などは知らないが、聞いたことがある」という方は56.8%で昨年度よりも0.7ポイント増加した。また、「地域協議会での協議内容や決定事項など」については、「見たことがある」という方が72.3%となり、昨年度より5.1ポイント減少した。昨年度と大きな変化はないが、「役割まで知っている」という方は3割に満たないことから、市広報誌やホームページ、出前講座などの様々な手段を用いて、積極的に周知していく必要がある。

【問8】～【問9】の「地域魅力発信プラン」については、「知っている」が昨年度よりも3.2ポイント減少し、71.6%の方が「知らない」という結果となった。知ったきっかけは、ほとんどの方が「地域協議会だより」「自治会での回覧」と回答している。プランを広く周知するため、その他の媒体の活用や広報の方法を検討していく必要がある。

【問10】～【問11】の「地域のお宝発掘・発展・発信事業」については、30.4%の方が「知っている」と回答しており、昨年度よりも5.1ポイント減少した。また、66.9%の方が「知らない」と回答しており、今後も事業内容等を幅広く周知できる広報の手法の検討や、広報の中で興味を持ってもらえるよう、内容を工夫していく必要がある。

【問12】～【問16】の「地域まちづくり推進委員会」については、「活動内容まで知っている」という方が28.4%で、昨年度よりも1.3ポイント増加し、「参加したことがある」という方が24.3%で、昨年度よりも0.4ポイント増加した。また、地域まちづくり推進委員会が発行する広報紙やチラシについては、59.5%の方が「見たことがある」と回答しており、こちらも、昨年度より3.4ポイント増加している。今後も、魅力ある事業の実施と魅力ある広報により、興味を持ってもらう工夫をすることで、更なる認知度アップに繋げていく必要がある。

【問17】の地域の課題については、防犯や防災に関する意見がもっとも多く、環境問題、地域福祉や地域の親睦や教育が続いた。特に、「防犯活動」「防災訓練」「子どもたちの見守り」「地域住民同士の交流」などは、自治会や地域まちづくり推進委員会が主に取り組んでいる事業であり、今後も、地域で重点的な課題として取り組むべきものである。

【問18】のまちづくりを発展させるための取組としては、積極的な活動ができるよう「自主的なボランティアへの参加に各人が努める必要がある」「職業、性別、年齢等を越えて門戸を広くする」「学校と地域との繋がりを持たせる」ことで、多くの人を巻き込むことが必要であるといった意見が挙げられている。

◆ 調査結果まとめ

昨年度と比較し、地域協議会や地域まちづくり推進委員会では、団体や活動の認知度、活動への参加者について改善が見られたが、地域魅力発信プラン、お宝発信事業については、認知度が下がっている。

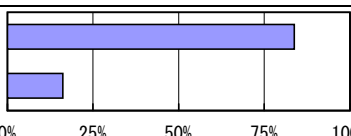
また、担い手や参加者の固定化と高齢化など、社会構造の変化などに起因するものが挙げられているため、本格的な人口減少社会の到来を見据え、時代の変化に即した、事業の企画や広報を検討し、広く地域住民を巻き込みながら、まちづくりを展開していく必要がある。

◎ 調査結果

1 あなた自身のまちづくり活動に関して、おうかがいします

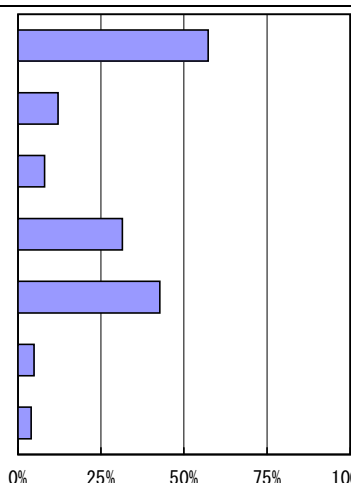
問1 地域の活動に参加したことがありますか。
※地域の活動…地域清掃や地域の防災訓練、運動会、自治会活動、子ども会活動など

選択肢	回答数	構成比
1 参加したことがある	124	83.8%
2 参加したことがない	24	16.2%
計	148	100%



問2 【問1で「1 参加したことがある」と答えた方に質問します】（複数回答可）
地域の活動に参加した動機（きっかけ）は何ですか。

選択肢 (回答者数 126人)	回答数	構成比
1 自主的に参加した	71	57.3%
2 家族のすすめ・誘いがあったから	15	12.1%
3 知人や友人からのすすめ・誘いがあったから	10	8.1%
4 子どもや家族のために	39	31.5%
5 自治会などの地域団体から依頼があったから	53	42.7%
6 職場から依頼があったから	6	4.8%
7 その他	5	4.0%
計	199	100%

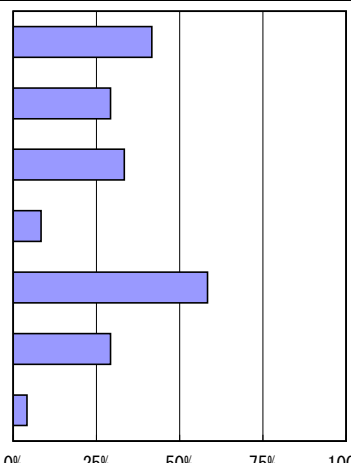


○その他意見

- ・退職したら、参加すると決めていた。
- ・班長だったから。
- ・移住したため、できるだけ地域の人達に知ってもらえるよう、積極的に参加している。
- ・強制的に参加を求められた。

問3 【問1で「2 参加したことがない」と答えた方に質問します】（複数回答可）
地域の活動に参加していない理由は何ですか。

選択肢 (回答者数 29人)	回答数	構成比
1 地域活動を知らなかったから	10	41.7%
2 地域活動に参加したいと思わないから	7	29.2%
3 地域活動に参加しなくても生活に支障がないから	8	33.3%
4 いずれ今の住所から転居するつもりだから	2	8.3%
5 仕事や家事などが忙しくて参加する時間がないから	14	58.3%
6 自分や家族のプライベートの時間を大切にしたいから	7	29.2%
7 その他	1	4.2%
計	49	100%



○その他意見

- ・介護しているので、それで精一杯である。
- ・子どものスポーツ少年団で忙しいため、なかなか参加できない。

問4 どのようなことがあれば地域活動に参加したいと思いますか。（自由記述）
※現在の地域活動に対する改善策でも構いません。

（主なご意見）

【内容に関する意見：31件】

- ・住民として必要とされていると感じられれば、積極的に参加できると思う。
- ・子供が主役の活動で、親や家族同伴だといいい。
- ・生活に負担のない程度の活動。
- ・目的が具体的になっている活動。

【知人等の誘い：8件】

- ・自分から参加しようと思うとハードルが高いので、一緒に活動したくなるように接してもらえると希望者も増えると思う。
- ・年齢の近い人と交流できるのであれば参加したい。

【情報に関する意見：4件】

- ・地域で困っている事があれば発信して欲しい。
- ・年間行事等の計画を回覧等でPRするといいい。
- ・PRが不足している。

【時間や日程に関する意見：4件】

- ・小中学生の子育て世代は、地域活動に参加できる時間的余裕がない。そこを改善しなければ、子育て終了後しか地域活動への参加は難しいと思う。
- ・自治会の活動は、土日に限定され、家業の都合で困っている家庭もある。

【参加したくない：3件】

【その他（地域活動に関する意見など）：19件】

- ・役員がまわってこないのであれば何でも参加したい。

2 地域自治区について、おうかがいします

問5 ご自身がどの地域自治区に住まわれているかご存知ですか。

選択肢	回答数	構成比
1 知っている	138	93.2%
2 知らない	10	6.8%
3 無回答	0	0.0%
計	148	100%

3 地域協議会について、おうかがいします

問6 各地域自治区には、地域住民の意見を市政に反映させるための組織である「地域協議会」が設置されています。地域協議会をご存知ですか。

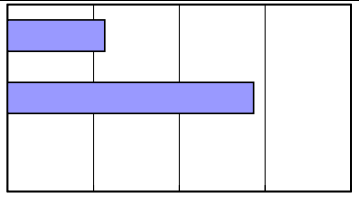
選択肢	回答数	構成比
1 役割まで知っている	43	29.1%
2 役割などは知らないが、聞いたことがある	84	56.8%
3 聞いたことがない	21	14.2%
4 無回答	0	0.0%
計	148	100%

問7 地域協議会では、地域協議会だよりなどの広報で、協議内容や決定事項などをお知らせしています。ご覧になったことはありますか。

選択肢	回答数	構成比
1 見たことがある	107	72.3%
2 見たことがない	41	27.7%
3 無回答	0	0.0%
計	148	100%

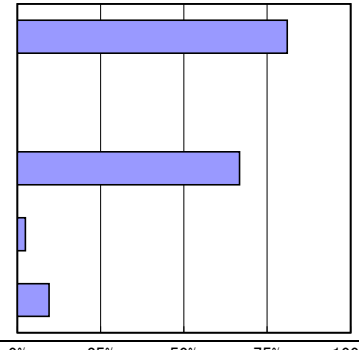
問8 地域自治区ごとに、地域協議会等が主体となって、地域まちづくりの将来像を明確にするために「地域魅力発信プラン」を作成しました。
「地域魅力発信プラン」が策定されたことはご存知ですか。

選択肢	回答数	構成比
1 知っている	42	28.4%
2 知らない	106	71.6%
3 無回答	0	0.0%
計	148	100%



問9 【問8で「1 知っている」と答えた方に質問します】（複数回答可）
この「地域魅力発信プラン」を知ったきっかけは何ですか。

選択肢（回答者数 49人）	回答数	構成比
1 地域協議会だより	34	81.0%
2 新聞折込(チラシ)	0	0.0%
3 自治会での回覧	28	66.7%
4 家族や知人、友人からの情報	1	2.4%
5 その他	4	9.5%
計	67	-

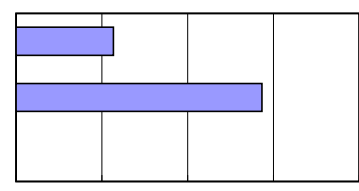


○その他意見

- ・ ラジオでの広報。
- ・ 地域まちづくり推進委員会には、出入りしているので、直接、実情を耳にする。
- ・ これまでの市政モニターのアンケートで知っている。

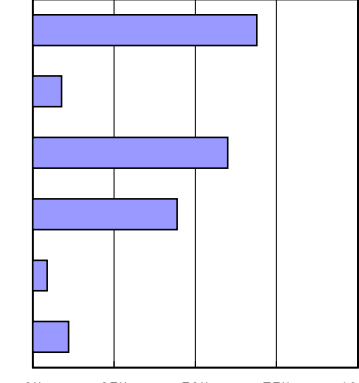
問10 地域魅力発信プランの実現を促進し、各地域自治区における地域資源である「お宝」の磨き上げや発信、並びに、住みよく誇りと愛着を持った地域づくりを推進するため、平成28年度より「地域お宝発掘・発展・発信事業」を実施しておりますがご存知ですか。

選択肢	回答数	構成比
1 知っている	45	30.4%
2 知らない	99	66.9%
3 無回答	4	2.7%
計	148	100%



問11 【問10で「1 知っている」と答えた方に質問します】（複数回答可）
この「地域お宝発掘・発展・発信事業」を知ったきっかけは何ですか。

選択肢（回答者数 55人）	回答数	構成比
1 市の広報紙	31	68.9%
2 市のホームページ	4	8.9%
3 地域協議会だより	27	60.0%
4 自治会での回覧	20	44.4%
5 家族や知人、友人からの情報	2	4.4%
6 その他	5	11.1%
計	89	-



○その他意見

- ・ 直接、事業に関わっている。
- ・ これまでの市政モニターのアンケートで知っている。

4 地域まちづくり推進委員会について、おうかがいします。

問12 各地域自治区には、地域協議会と連携してまちづくり活動に取り組む「地域まちづくり推進委員会※」が組織されています。地域まちづくり推進委員会をご存知ですか。

※地域によっては、地区振興会や地域づくり協議会、地域まちづくり協議会などの名称で組織されています。

選択肢	回答数	構成比
1 活動内容まで知っている	42	28.4%
2 活動内容は知らないが、聞いたことがある	78	52.7%
3 聞いたことがない	27	18.2%
4 無回答	1	0.7%
計	148	100%

問13 地域まちづくり推進委員会が行う行事（地域コミュニティ活動交付金※を活用した事業）などに参加したことはありますか。

※地域自治区及の特色を活かしたまちづくりを展開するため、地域課題の解決に向けた活動に必要な財源として、1地区あたり200万～700万円が毎年市から交付される。

選択肢	回答数	構成比
1 参加したことがある	36	24.3%
2 参加したことがない	108	73.0%
3 無回答	4	2.7%
計	148	100%

○主な活動内容

- ・ 「子育て語ろう会」「子ども会活動」などの子育てに関する活動
- ・ 「歩こう会」「ラジオ体操会」「福祉まつり」などの健康福祉に関する活動
- ・ 「防災訓練」「救急・救命講習」などの防災・防犯に関する活動

問14 地域まちづくり推進委員会が発行する広報紙やチラシ（地域コミュニティ活動交付金を活用した事業のお知らせ）などを ご覧になったことはありますか。

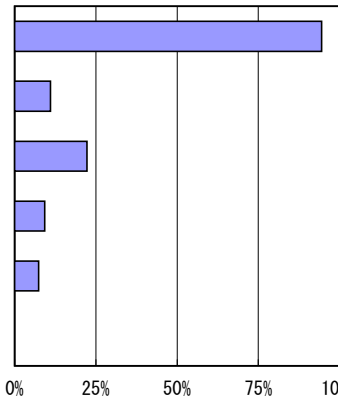
選択肢	回答数	構成比
1 見たことがある	88	59.5%
2 見たことがない	60	40.5%
3 無回答	0	0.0%
計	148	100%

問15 市では、一人でも多くの方々が地域のまちづくり活動に気軽に参加していただけるよう、「宮崎市地域まちづくりサポーター」を募集しています。「宮崎市地域まちづくりサポーター」をご存知ですか。

選択肢	回答数	構成比
1 知っている	54	36.5%
2 知らない	94	63.5%
計	148	100%

問16 【問15で「1 知っている」と答えた方に質問します】（複数回答可）
この「宮崎市地域まちづくりサポーター」を知ったきっかけは何ですか。

選択肢（回答者数 51人）	回答数	構成比
1 市の広報紙	51	94.4%
2 市のホームページ・フェイスブック	6	11.1%
3 地域魅力発信ブラン集	12	22.2%
4 新聞	5	9.3%
5 家族や知人、友人からの情報	4	7.4%
6 その他	0	0.0%
計	78	-



○その他意見

- ・ これまでの市政モニターのアンケートで知っている。

5 地域の課題について、おうかがいします

問17 あなた自身が困っていることや、地域の皆さんで取り組んだら良いと思う地域の課題は何ですか。「内容」の欄には、その課題の具体的な内容をご記入ください。また、「解決策」の欄には、こうしたら解決するのではという方法がございましたら、ご記入ください。（複数回答可）

取り組むべき地域課題	回答数	構成比
防犯について（青色パトロールなど）	47	18%
防災について（地域防災訓練など）	47	18%
子育てについて（子育て相談会など）	20	8%
地域福祉について（高齢者ふれあい交流会、障がい者支援講座など）	25	10%
環境問題について（環境美化・エコ活動、自然保護観察会など）	36	14%
地域の親睦について（地域のまつりなど）	25	10%
地域の文化伝承について（伝統芸能など）	14	5%
地域スポーツの振興について（スポーツ大会など）	14	5%
教育について（地域と学校の連携、生涯学習教室など）	25	10%
その他	8	3%
合計	261	100%

分野別の地域の課題

【防犯について：47件】

「街灯を増やしてほしい」「子ども達の登下校の見守りをしてほしい」「不審者が出やすい時間帯にパトロールをしてほしい」「青少年指導委員が高齢化している」などの意見が出されている。

その解決策として、「街灯の数を増やし、照度の高いものを設置する」「防犯のために外灯をつけるよう案内する」「若い人が参加しやすい環境を整備し、職場に依頼する」「散歩、ペット散歩の時にあいさつ、声掛けを行う」「地域の交番との意見交換会を開催する」などが挙げられている。

【防災について：47件】

「避難したことがないので、避難所でどのような対応になるのか不安である」「どこに避難すればいいかわからない」「家庭でできる減災、災害時に備えての備蓄等が分からない」「地域住民の防災意識が、地域でばらつきがある」など、災害時の避難や避難所運営に不安を持つ意見や防災意識の醸成を求める意見が出されている。

その解決策として、「避難所体験会を実施する」「講習会等を増やして周知を図る」「地域自治区単位の防災訓練等を実施し、減災・防災意識を高める」などが挙げられている。

【子育てについて：20件】

「気軽に相談できる場所がない」「親子向けのイベントがない」「親子で利用できる施設が増えるといい」などの意見が出されている。

その解決策として、「地域に悩み相談ができる体制を作る」「高齢者向けではなく、子ども向けのイベントも増やす」「子育てサポーターを作るといい」「幼稚園や保育園を活用する」などが挙げられている。

【地域福祉について：25件】

「子どもとお年寄りのサロンがあるといい」「高齢者の自我が強いいため、参加したくない」「サロンに男性の参加が少ない」「老人クラブの加入を進めるといい」などの意見が出されている。

その解決策として、「高齢者向け、障がい者向けのイベントでなく、子ども、若者、健常者を交えたものにする」「サロンが楽しい場所だと知ってもらう」「気長に継続することが大事である」「口コミで活動を紹介し、参加者を増やすようにする」などが挙げられている。

【環境問題について：36件】

ゴミの分別や草刈りに関する意見が多く、「ゴミの分別をしていないため、収集されずにゴミが残っている」「ゴミ置き場の管理、清掃活動が不足している」「雑草などを放置している住宅があり、見ばえも悪く、防犯上も良くない」などの意見が出されている。

その解決策として、「自治会で、ゴミの分別に問題のある住民に注意喚起を行うべきである」「ゴミの回収は自治会の指定した場所に限定する」「自分の家の管理は、住んでいる人が日頃からするなどのルール作りが必要である」などが挙げられている。

【地域の親睦について：25件】

地域でのまつりに関する意見が多く、「参加者が多く、盛り上がっている」「年に1回夏祭りが開催されるが、参加者が少ない」「年々寂しくなるように思える」「全ての小学校単位で企画すべきである」などの意見が出されている。

その解決策として、「地区役員、婦人部が中心となり、魅力ある内容にするためにアンケートを行う」「色々な場面で顔の見える関係をつくり、自治会加入率を高めることが重要である」などが挙げられている。

【地域の文化伝承について：14件】

「神輿をかつぐ人、予算が不足している」「住んでいる地域には、伝統芸能があまりない」などの意見が出されている。

その解決策として、「各地区の高齢者を招き、地域に残る芸能・文化の話を聞き、データで残す」「小学校と連携し、発表の場を設ける」などが挙げられている。

【地域スポーツの振興について：14件】

「地域のスポーツ大会が少ない」「地域では単独によるスポーツ大会は無理である」「少子化高齢化でソフトボール、駅伝などチームが組めない地域もある」などの意見が出されている。

その解決策として、「高齢者も参加できるようなスポーツ大会を実施する」「近隣地区に呼びかけ、合同でのスポーツ大会を開催する」「ソフトバレーやボッチャ（球入れ）等の誰でもできるスポーツを実施する」などが挙げられている。

【教育について：25件】

社会教育、生涯教育について、「社会人が学べる講座を開催する」「長寿社会における生涯学習の在り方を明らかにする」「生涯学習推進協議会が機能していると思えない」「夏休みには子供の寺小屋的な学習の機会があるといい」などの意見が出されている。

解決策として「講座を立ち上げ、様々な職業人を紹介する」「放課後は、地域の憩いの場でお年寄りが子ども達に宿題を教える」「地域の方や高校生ボランティアで小学生に勉強を教える」などが挙げられている。

【その他：8件】

その他、「地域に商店がないので、公民館や公園などでの販売があるといい」などの意見が出されている。

6 最後に、おうかがいします。

問18 宮崎市のまちづくりを発展させていくためには、特にどのような取り組みが必要だと思いますか。あなたのご意見をお聞かせください。

（主なご意見）

- ・ まちづくりを発展させていくには、1人でも多くの方の参加が必要であるが、私を含め、仕事・育児等でなかなか参加できないのが現状である。今は参加できなくても、いずれは参加したいので、周知を含めて、気長に活動を続けていくべきだと思う。
- ・ 各自が、自主的に、ボランティアへ活動に参加する必要がある。
- ・ 自治会への入会、未入会にかかわらず、地域自治体の情報を提供する。
- ・ 取組に多様性をもたせ、職業、性別、年齢等を超えて門戸を広くし、新しい発見・発展があることに気づかせることが大切である。安易な同属性、同調性を求めない方がいい。
- ・ 地域活動は、昔のままでいいいけない人が多いと思うので、高齢者の意識改革が必要である。
- ・ 学校を交え、地域とのつながりをもたせると、継続しやすくなると思う。
- ・ 高齢者やアパート、マンションの増加などが住民同士のコミュニケーションを取りづらくしていると思う。
- ・ いじめ、暴力、ネグレクトなどで声を上げられない子ども達に対する地域の力は大きいと思う。世代間のコミュニティができれば、住み良く明るい街になると思う。
- ・ 一人一人が高い良識を持って取り組むことにより、より良い地域づくりに貢献できると思う。まちづくりに参加する時間活動の積み重ねで大きな輪が広がると思う。
- ・ 若い人が宮崎へ戻ってこれよう、都会にはない魅力を発信してほしい。
- ・ 市民一人一人の参加意識の向上が必要である。
- ・ 行政と地域が協働してまちづくりを発展させるべきである。総合支所や地域センターの職員が、地域にもっと溶け込むべきである。また、地域協議会の役員は同じ人が続いていることに問題があるので、新しい人を参加させるべきである。

- ・ もう少し小さい単位で組織を作ってほしいと思う。
- ・ 人と人とのつながりが不足している中では、発展も難しいので、顔を知って仲良くなっていくことが大切だと思う。
- ・ 街を形成するのは大人ではなく子供だと考える。もっと子供目線に立った街づくりを考えたらいいと感じる。
- ・ 住民全体のことを真剣に考えるまちづくり推進委員会であってほしい。一部の役員による上意下達的な企画が多いと思う。
- ・ 22の地域自治区があるのは分かるが、地域協議会、地域まちづくり推進委員会、クラブ等々、様々な組織があり、末端の自治会員から見ると良く分からない。地域自治区が本当に機能しているのかどうか検討すると思う。
- ・ 高齢者が中心になった地域の関わり方では課題解決につながらないと思う。若い世代や子どもを中心にした活動を考えていかないと次世代につながる地域まちづくりはできないと思う。